

「2022年度起業と起業意識に関する調査」

～アンケート結果の概要～

I	調査目的と実施要領	1
II	調査結果（詳細調査）	
1	起業家・パートタイム起業家・起業関心層・起業無関心層の違い	4
2	起業家の実態	7
3	起業関心層の実態	19
4	起業家・パートタイム起業家・起業関心層・起業無関心層の満足度	24
III	まとめ	25

<お問い合わせ先>
日本政策金融公庫 総合研究所
小企業研究第一グループ
TEL 03-3270-1687
担当 青木、桑本

I 調査目的と実施要領

1 調査目的

日本政策金融公庫総合研究所では、新規開業の実態を把握するために、1991年から毎年「新規開業実態調査」を実施している。ただ、同調査の調査対象は、開業前後に日本政策金融公庫から融資を受けた企業に限られる。そこで、同調査を補完し、「起業前後に融資を受けなかった人」や「まだ起業していない人」などにも焦点を当てるため、インターネットを用いたアンケート調査「起業と起業意識に関する調査」を2013年度から実施している。

2019年度調査からは、それまで一類型として分析していた起業家を、事業に充てる時間に応じて「起業家」と「パートタイム起業家」の二つに分けている。副業起業やフリーランスの増加などにみられるように、起業家の働き方は多様化しており、勤務や家事の隙間時間にインターネットなどを通じて小規模な事業を行う人も多い。また、現在の職業を「事業経営者」と回答していない人のなかには、勤務収入以外の収入があり、実態は自ら事業を始め、経営しているにもかかわらず、事業経営者であるとの認識をもたない「意識せざる起業家」も少なからずいる。このように多層化する起業家の実態を把握しやすくするために、2019年度から起業家を働く時間によりさらに分類することとした。分類に当たっては厚生労働省「労働力調査」における短時間勤務の基準を参考にし、事業に充てる時間が1週間に35時間以上を「起業家」、35時間未満を「パートタイム起業家」としている。なお、「意識せざる起業家」も事業に充てる時間に応じて起業家またはパートタイム起業家に含めて分析している。

2 実施要領

(1) 調査時点

2022年11月

(2) 調査対象

全国の18歳から69歳までの人

(3) 調査方法

インターネットによるアンケート（事前調査と詳細調査の2段階）

インターネット調査会社から登録モニターに電子メールで依頼し、ウェブサイト上の調査画面に回答者自身が回答を入力。

① 事前調査 … 本調査の調査対象に該当するかどうか等を判別するための簡易なアンケート

② 詳細調査 … 調査対象の該当者（「起業家」「パートタイム起業家」「起業関心層」「起業無関心層」）に対して行う詳細なアンケート

(注) 1 2022年度調査では、起業年を「2018～2022年」「2017年以前」に区分し、このうち「2018～2022年」を「起業家」「パートタイム起業家」としている。なお、「起業家」は現在経営している事業に充てている時間が1週間当たり35時間以上である人、「パートタイム起業家」は同35時間未満である人と定義している。

2 事前調査で現在の職業を「事業経営者」と回答した人に加えて、「事業経営者以外」と回答した人のうち、勤務収入や事業収入以外に、過去1年以内に年間20万円以上の収入があると回答した人を事業経営者とし、そのなかからも「起業家」と「パートタイム起業家」を抽出している。

(4) 回収数

① 事前調査 3万1,554人（A群1万9,992人、B群1万1,562人）

② 詳細調査 2,681人

(注) 1 事前調査（A群）の調査対象は、性別、年齢層（10歳きざみ）、居住する地域の割合がわが国の人口構成（2022年時点）に準拠するように、回収数を設定した。

2 事前調査（B群）は、「起業家」「パートタイム起業家」のサンプルサイズを確保するために、その出現率が高いと思われる属性をもつ人に対して行ったものである。

(5) 調査対象の選別方法

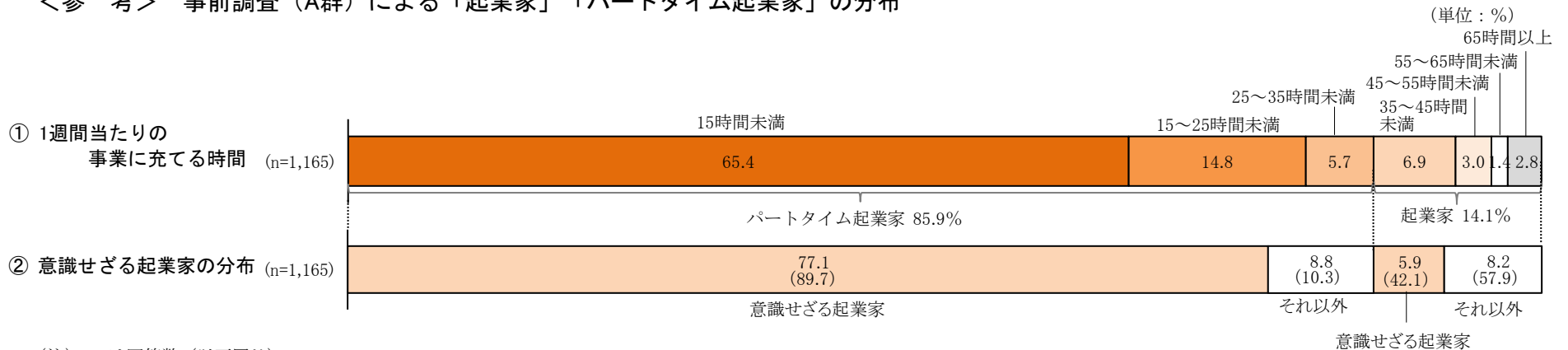
事前調査 (A群) による類型化

							回収数 (件)	構成比 (%)			<類型別の構成比>					
全国の18歳から69歳までの男女	事業経営者	自分が起業した事業である	起業年	2018~2022年	事業に充てる時間	35時間以上/週	95	0.5	⇒	起業家	意識せざる起業家					
						35時間未満/週	103	0.5				⇒	パートタイム起業家	起業家	164	0.8
					2017年以前			778	3.9	⇒		調査対象外	パートタイム起業家	1,001	5.0	6.5
					自分が起業した事業ではない		345	1.7	⇒	調査対象外		起業関心層	2,356	11.8	15.2	
	現在の職業 それ以外	勤務収入の有無 収入以外	あり 事業経営者	起業年	2018~2022年	事業に充てる時間	35時間以上/週	69	0.3	⇒		起業家	起業無関心層	11,984	59.9	77.3
							35時間未満/週	898	4.5				⇒	パートタイム起業家	その他 (調査対象外)	4,487
					2017年以前			924	4.6	⇒		調査対象外	合計	19,992	100.0	100.0
				起 関 心 へ の 有 無	起業に関心あり		2,356	11.8	⇒	起業関心層						
					以前も今も起業に関心なし		11,984	59.9	⇒	起業無関心層						
					以前は起業に関心があった (新型コロナウイルス感染症の事業者への影響をみて関心がなくなった)		674	3.4	⇒	調査対象外						
		以前は起業に関心があった (上記以外の理由で関心がなくなった)			1,766	8.8	⇒	調査対象外								
合 計							19,992	100.0								

資料：日本政策金融公庫総合研究所「2022年度起業と起業意識に関する調査」(以下同じ)

- (注) 1 「勤務収入以外の収入がある」とは、過去1年間に年間20万円以上の収入(年金や仕送りからの収入、不動産賃貸による収入、太陽光発電による収入、金融や不動産などの投資収入、自身が使用していた既製品の販売による収入は除く)があり、今後も継続してその収入を得ていく場合のことをいう。
 2 以下では「勤務収入以外の収入がある」と回答した人を「事業経営者」として、「勤務収入以外の収入」は「事業収入」として集計する。

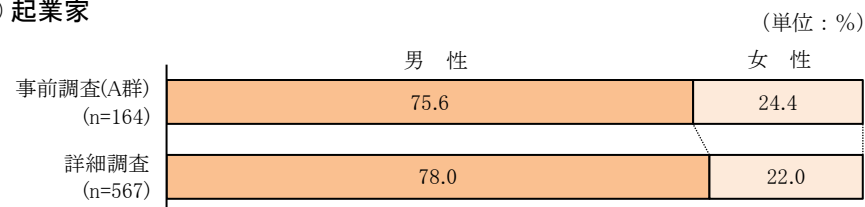
<参 考> 事前調査 (A群) による「起業家」「パートタイム起業家」の分布



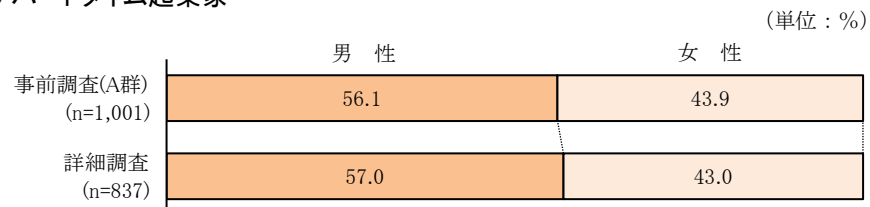
3 回答者の概要

(1) 性別

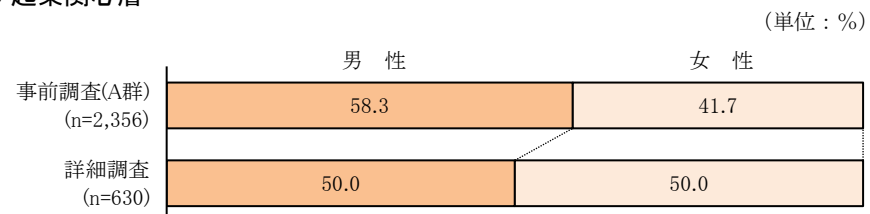
① 起業家



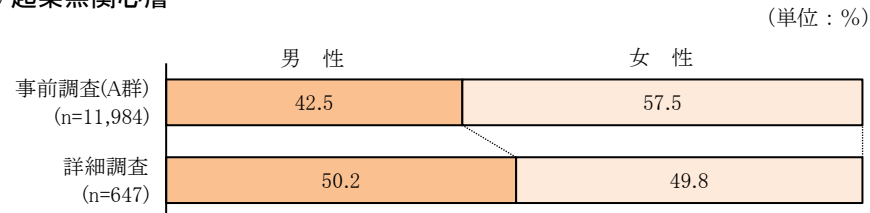
② パートタイム起業家



③ 起業関心層

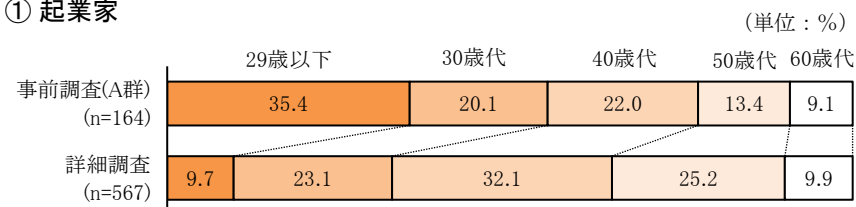


④ 起業無関心層

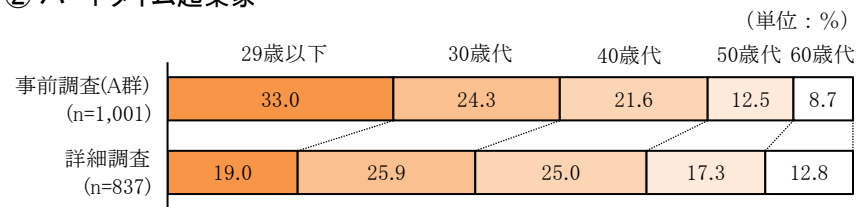


(2) 調査時点の年齢

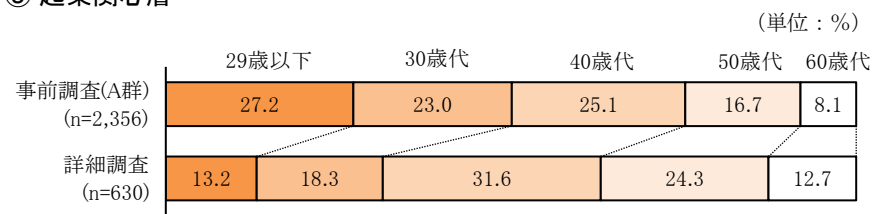
① 起業家



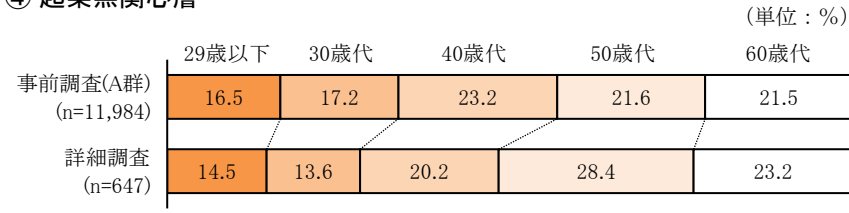
② パートタイム起業家



③ 起業関心層



④ 起業無関心層



(注) [再掲]事前調査 (A群) の調査対象は、性別、年齢層 (10歳きざみ)、居住する地域の割合が人口構成に準拠するように、回収数を設定した。

4 ウェイトの設定(詳細調査のサンプル)

詳細調査における起業家、パートタイム起業家、起業関心層、起業無関心層の性別・年齢別構成比は、実際の人口構成を反映している事前調査 (A群) と比べて偏りが生じている。そこで、詳細調査の集計に当たっては、事前調査 (A群) の性別・年齢別構成比に近似させるために、26ページに記載のとおりウェイト値を設定した。以下では、ウェイト値による重みづけを行った集計を示している。ただし、図表中のn値 (回答数) は原数値を示した。

II 調査結果（詳細調査）

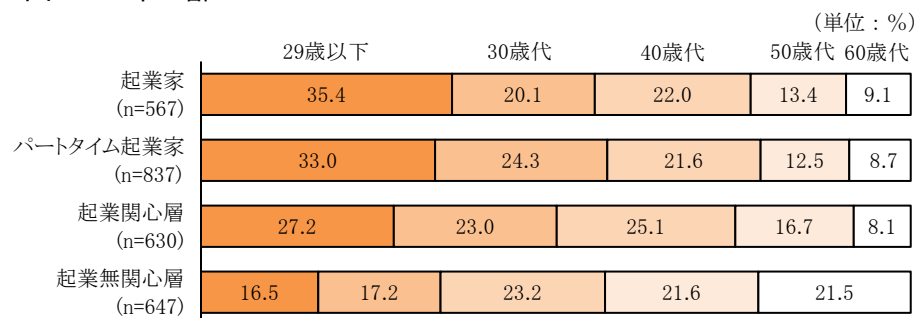
1 起業家・パートタイム起業家・起業関心層・起業無関心層の違い

(1) 属性

～パートタイム起業家の4割以上が「女性」～

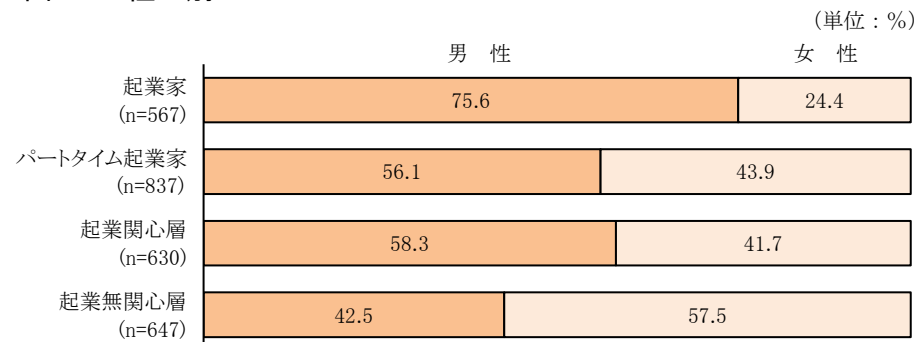
- 年齢を類型別にみると、起業家、パートタイム起業家、起業関心層は「29歳以下」の割合（順に35.4%、33.0%、27.2%）が最も高い（図-1）。起業無関心層は、ほかの類型と比べて「60歳代」（21.5%）の割合が高い。
- 性別をみると、起業家では「男性」が75.6%、「女性」が24.4%、パートタイム起業家では順に56.1%、43.9%となった（図-2）。起業無関心層では、「女性」（57.5%）が半数を超える。
- 現在の職業が「勤務者（正社員）」の割合をみると、起業家が8.9%と、パートタイム起業家（30.9%）、起業関心層（51.3%）、起業無関心層（41.8%）に比べて低い（図-3）。
- 主たる家計維持者である割合は、起業家が72.3%で、パートタイム起業家（57.1%）、起業関心層（60.8%）、起業無関心層（48.2%）より高い（図-4）。

図-1 年齢



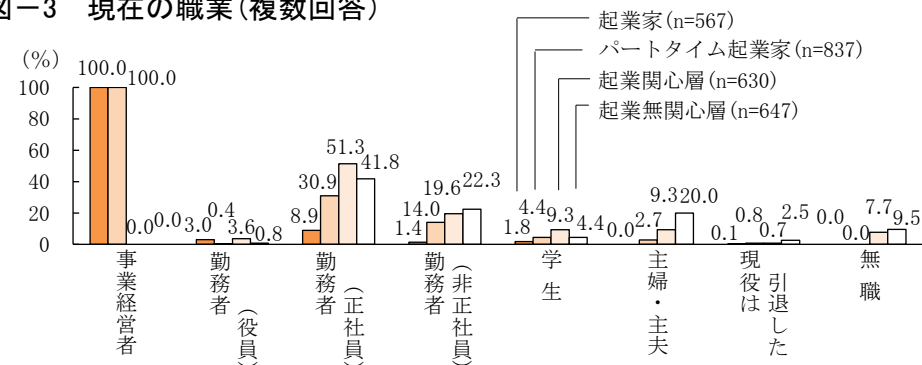
(注) 詳細調査による集計データにウエイトをかけているため、3ページの詳細調査の結果とは異なる。

図-2 性別



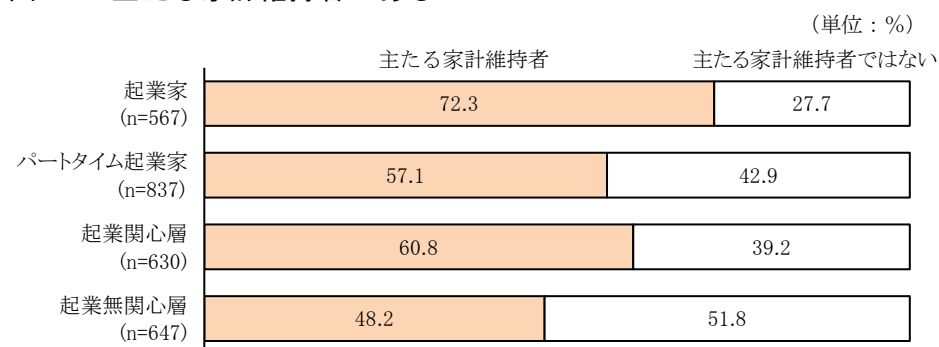
(注) 図-1 (注) に同じ。

図-3 現在の職業（複数回答）



(注) 分類上、事業経営者の割合は、起業家およびパートタイム起業家では100%、起業関心層および起業無関心層では0%となる。

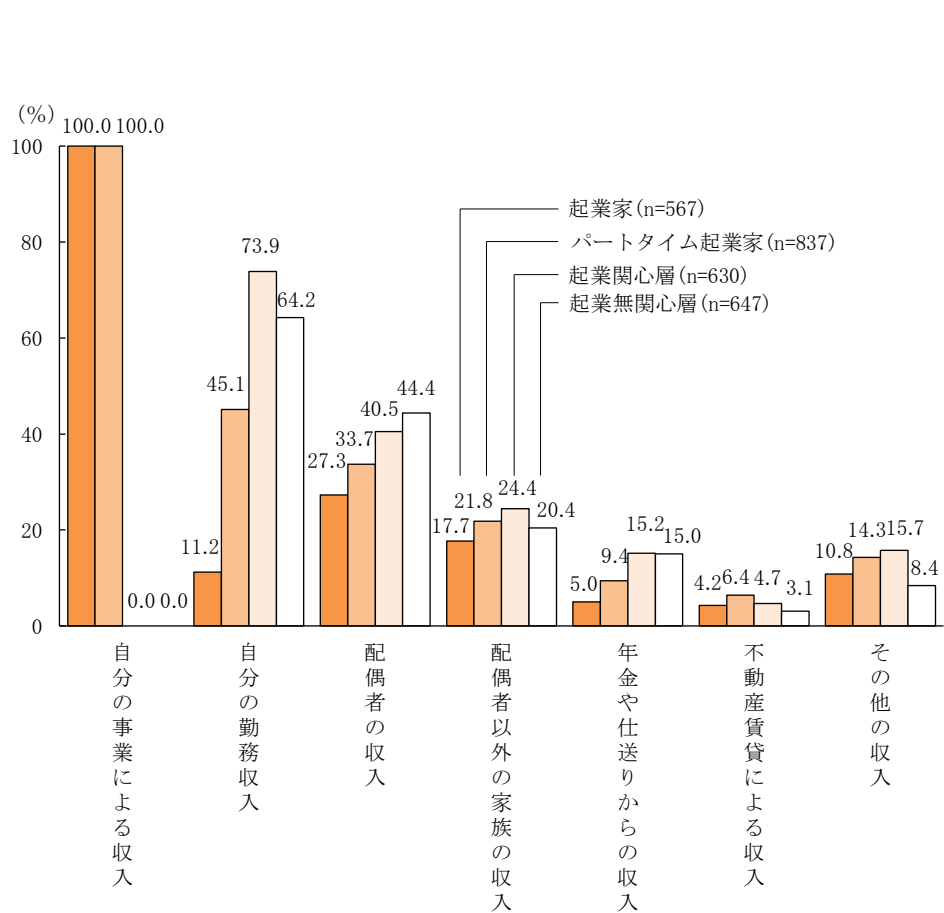
図-4 主たる家計維持者であるか



～起業関心層とパートタイム起業家は育児に携わっている割合が相対的に高い～

- 世帯収入の内訳に「配偶者の収入」がある割合は、起業家（27.3%）やパートタイム起業家（33.7%）に比べて、起業関心層（40.5%）や起業無関心層（44.4%）の方が高い（図-5）。
- 育児に携わっている割合は、起業関心層で31.6%と最も高く、パートタイム起業家（26.8%）が続く（図-6）。
- 介護に携わっている割合は、起業家で10.0%と相対的に高い（図-7）。

図-5 世帯収入の種類（複数回答）



(注) 1 「その他の収入」には、「太陽光発電による収入」「金融や不動産などの投資収入」「勤務収入や事業収入以外の年間20万円未満の収入」が含まれる。
 2 分類上、「自分の事業による収入」は起業家およびパートタイム起業家では100%、起業関心層および起業無関心層では0%となる。

図-6 育児に携わっている時間

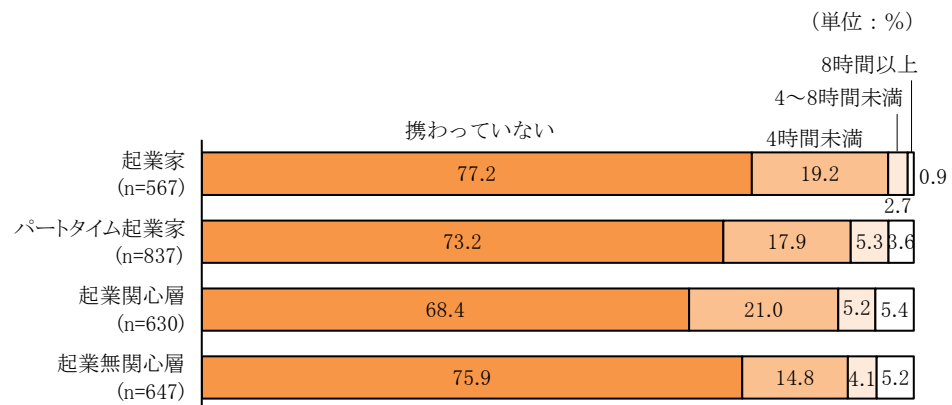
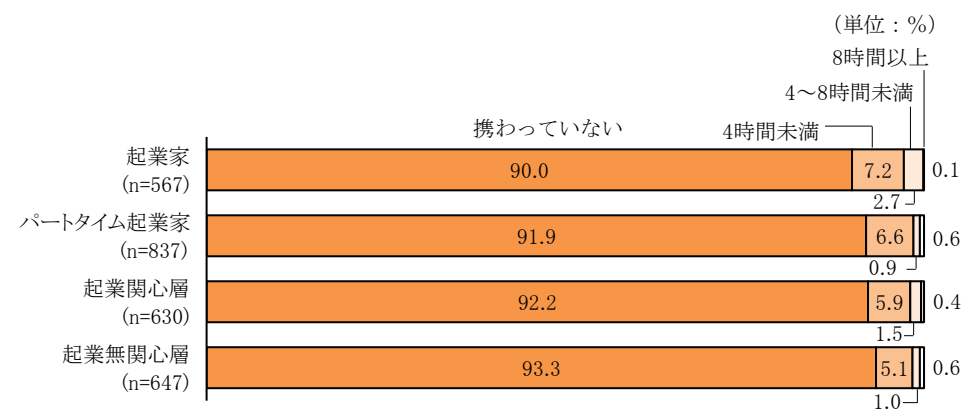


図-7 介護に携わっている時間

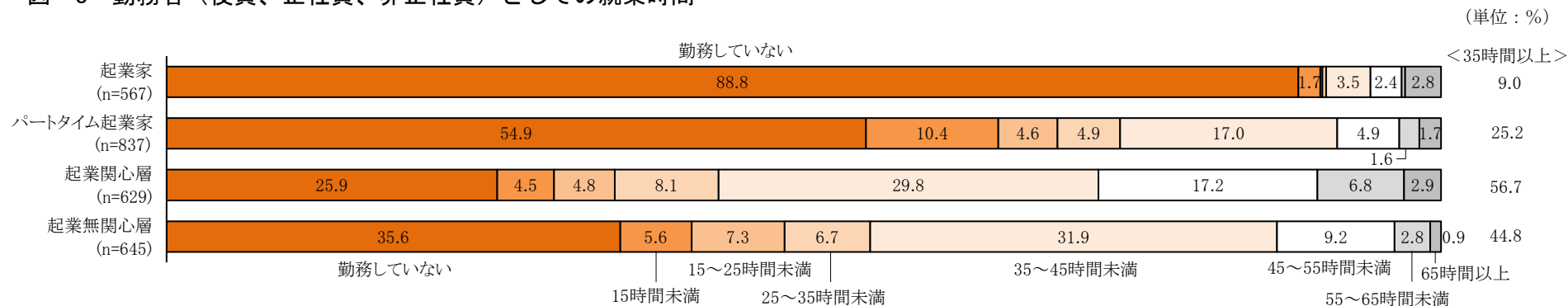


(2) 働き方

～パートタイム起業家の半数以上が「自宅の一室」で仕事～

- 勤務者（役員、正社員、非正社員）としての就業時間が「35時間以上」の割合は、起業関心層（56.7%）と起業無関心層（44.8%）が高く、パートタイム起業家では25.2%、起業家で9.0%であった（図-8）。
- 通勤時間が「1時間以上」である割合は、起業関心層（15.2%）と起業無関心層（16.3%）が高い（図-9）。一方、「自宅の一室」で仕事をしている割合は、起業家（42.1%）やパートタイム起業家（51.8%）が高い。
- 仕事をするうえで最も重視することをみると、「私生活との両立」は起業無関心層で44.9%と最も多く、パートタイム起業家（38.3%）と起業関心層（37.1%）が同程度で続いている（図-10）。起業家では28.9%と相対的に回答が少ない。「収入」の割合はどの類型も30%台後半で大きな差はない。

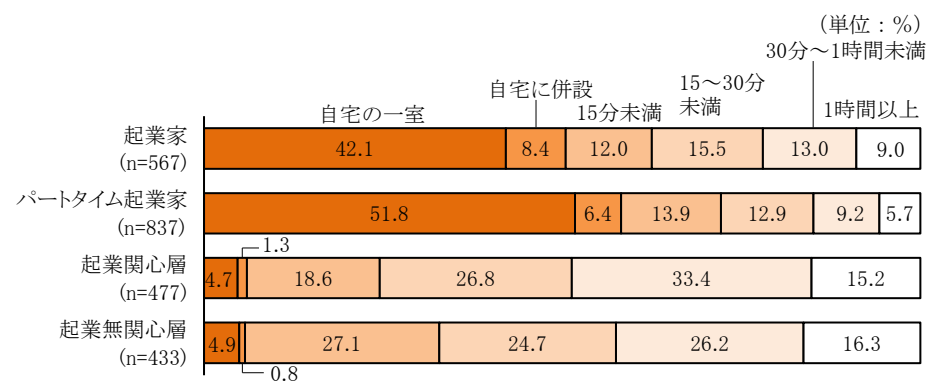
図-8 勤務者（役員、正社員、非正社員）としての就業時間



(注) 1 起業家、パートタイム起業家については、事業に充てる時間は含まない。

2 起業家について、値の記載を一部省略した。省略した数値は次のとおり。「15~25時間未満」0.2%、「25~35時間未満」0.3%、「55~65時間未満」0.3%。

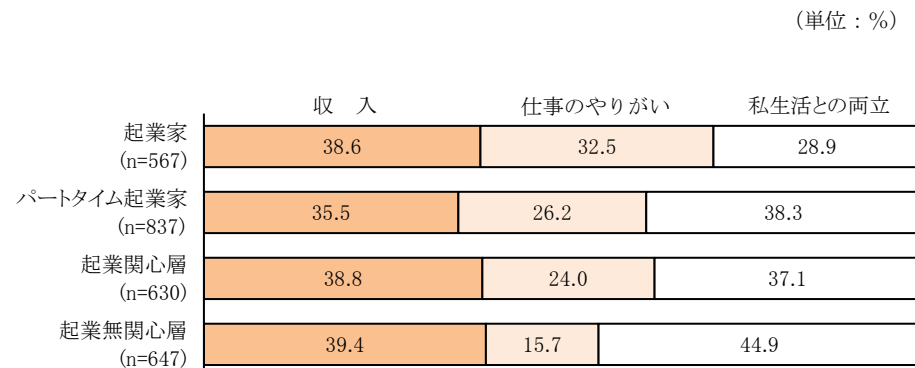
図-9 仕事の場所と通勤時間



(注) 1 起業家、パートタイム起業家は事業を行っている場所までの通勤時間を尋ねた。

2 起業関心層、起業無関心層は、現在の職業が勤務者である人にも、勤務先までの通勤時間を尋ねた。

図-10 仕事をするうえで最も重視すること



2 起業家の実態

(1) 主な属性

～1人で事業を運営している人が7割以上～

- 起業した業種をみると、「個人向けサービス業」の割合が起業家（22.9%）とパートタイム起業家（26.0%）ともに最も高く、「事業所向けサービス業」（順に13.1%、12.3%）を含めると、サービス業が3分の1以上を占める（表）。
- 開業時の組織形態は、「個人企業」が起業家で89.9%、パートタイム起業家で96.5%と大多数を占める（図-11）。
- 現在の従業員数が「1人（本人のみ）」である割合は起業家で71.6%、パートタイム起業家で76.8%に上る（図-12）。

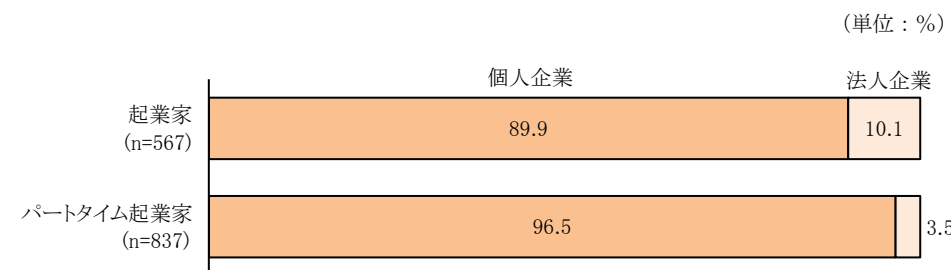
表 業種構成

(単位：%)

	起業家 (n=564)	パートタイム 起業家 (n=834)
建設業	10.7	6.0
製造業	1.4	5.0
情報通信業	10.9	9.0
運輸業	7.1	4.7
卸売業	0.9	1.7
小売業	10.6	10.2
飲食店・宿泊業	7.0	3.7
医療・福祉	5.2	6.1
教育・学習支援業	4.2	9.3
個人向けサービス業	22.9	26.0
事業所向けサービス業	13.1	12.3
不動産業、物品賃貸業	3.5	2.2
その他	2.4	3.7
合計	100.0	100.0

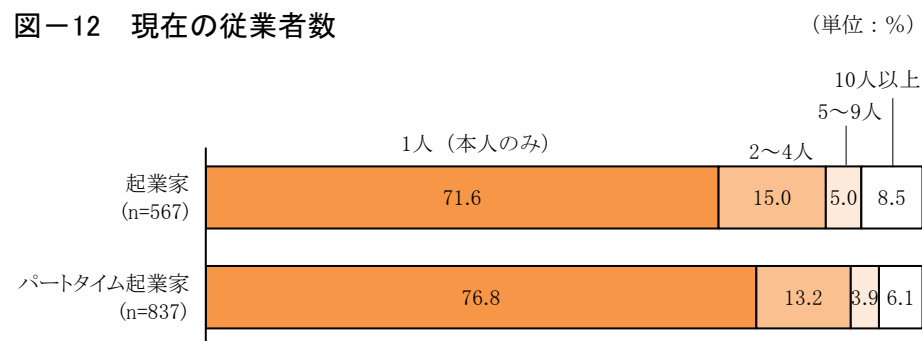
- (注) 1 起業家、パートタイム起業家に尋ねたもの（以下図-41まで同じ）。
- 2 複数の事業を経営している場合は、最も売上高が大きいものについて尋ねた（以下同じ）。
- 3 「持ち帰り・配達飲食サービス業」は「小売業」に含む。

図-11 開業時の組織形態



(注) 現在の職業を「事業経営者」と回答しなかった起業家、パートタイム起業家は「個人企業」とみなして集計した。

図-12 現在の従業員数



(注) 従業員数には経営者本人を含む（以下同じ）。

～「勤務しながら起業した」パートタイム起業家は4割以上～

- 主な販売先・顧客が「一般消費者」である割合は、起業家（56.4%）に比べてパートタイム起業家（67.3%）の方が高い（図-13）。
- 商品・サービスの新規性が「ある」とする割合は、起業家が42.6%、パートタイム起業家が39.9%である（図-14）。
- 開業時の勤務状況をみると、起業家は「勤務を辞めてから事業を始めた」（64.2%）が最も多い（図-15）。パートタイム起業家は「現在も勤務しながら事業を行っている」（32.8%）と「勤務をしながら事業を始めたが、現在は勤務を辞め、事業だけを行っている」（10.5%）を合わせた「勤務しながら起業した」割合が43.3%である。
- 勤務先からの離職理由をみると、「自らの意思による退職」の割合は、起業家が86.2%と、パートタイム起業家（77.9%）に比べて高くなっている（図-16）。一方、「定年退職」の割合は、パートタイム起業家（8.5%）が起業家（3.7%）を上回る。

図-13 主な販売先・顧客

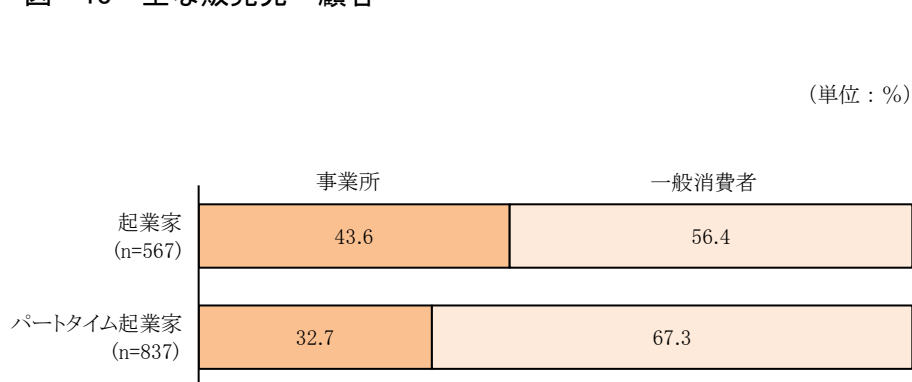


図-15 開業時の勤務状況

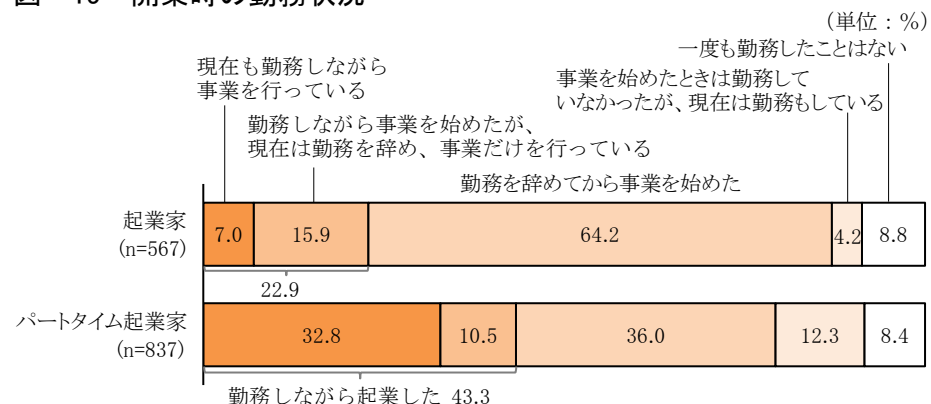


図-14 商品・サービスの新規性

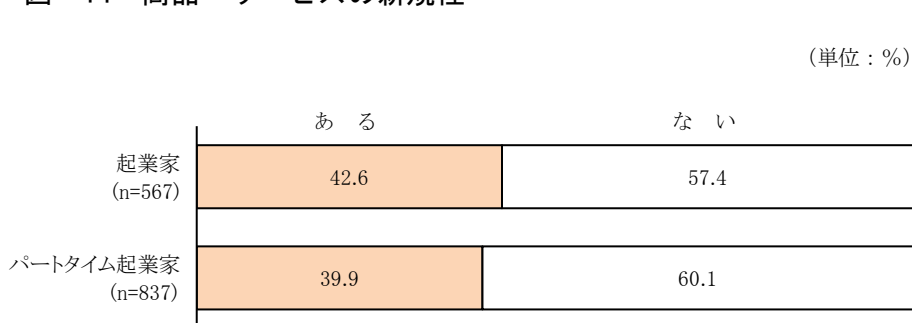
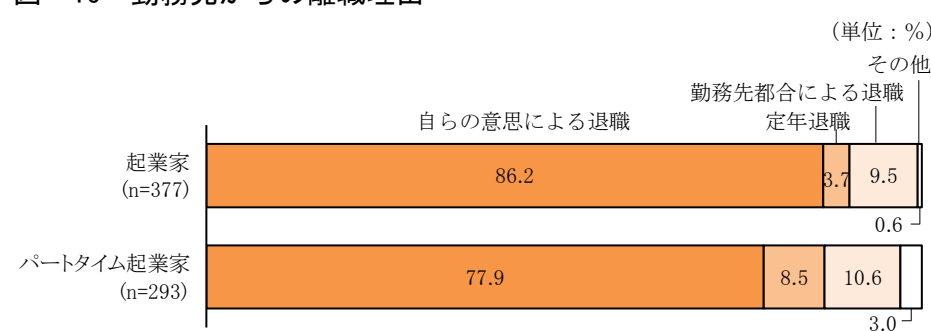


図-16 勤務先からの離職理由



(注) 「大いにある」「ある程度ある」を合算して「ある」、「まったくない」「あまりない」を合算して「ない」とした。

(注) 1 図-15において「勤務を辞めてから事業を始めた」と回答した人を集計した。
 2 「勤務先都合による退職」は、「事業部門の縮小・撤退に伴う離職」「勤務先の廃業による離職」「勤務先の倒産による離職」「解雇」の合計。

～事業収入以外に定期的な収入がある起業家は6割以上、パートタイム起業家は8割以上～

- 事業からの収入が経営者本人の定期的な収入に占める割合が「100%（ほかの収入はない）」である人は、起業家で35.9%と、パートタイム起業家（15.9%）よりも20.0ポイント多い（図-17）。パートタイム起業家は「5～25%未満」（28.7%）が最も多く、次いで「5%未満」が25.9%を占める。
- 事業からの収入が世帯収入に占める割合は、起業家は「100%（ほかの収入はない）」が22.6%と、パートタイム起業家（10.3%）を上回っている（図-18）。

図-17 事業からの収入が経営者本人の定期的な収入に占める割合

（単位：%）

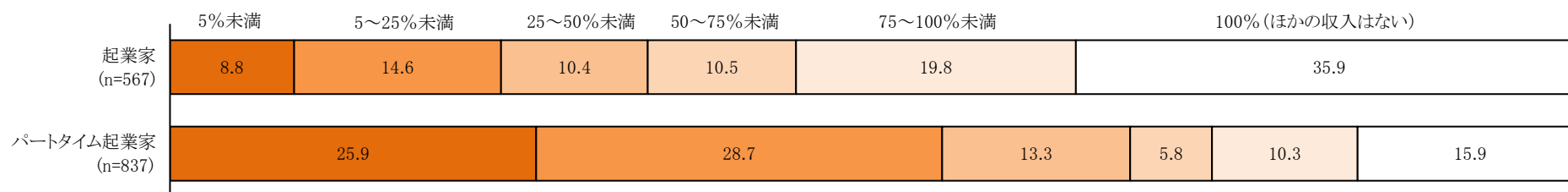
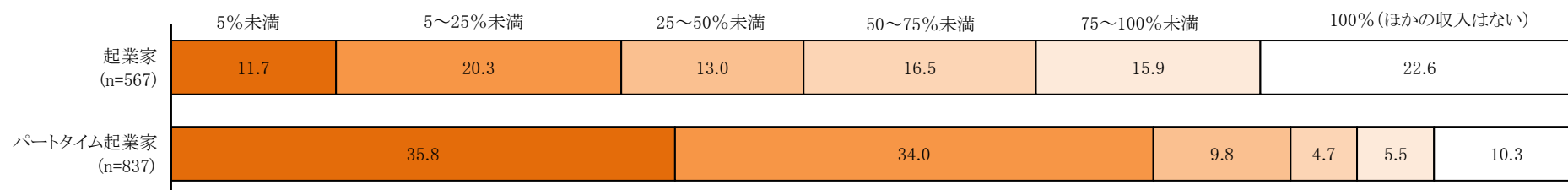


図-18 事業からの収入が世帯収入に占める割合

（単位：%）

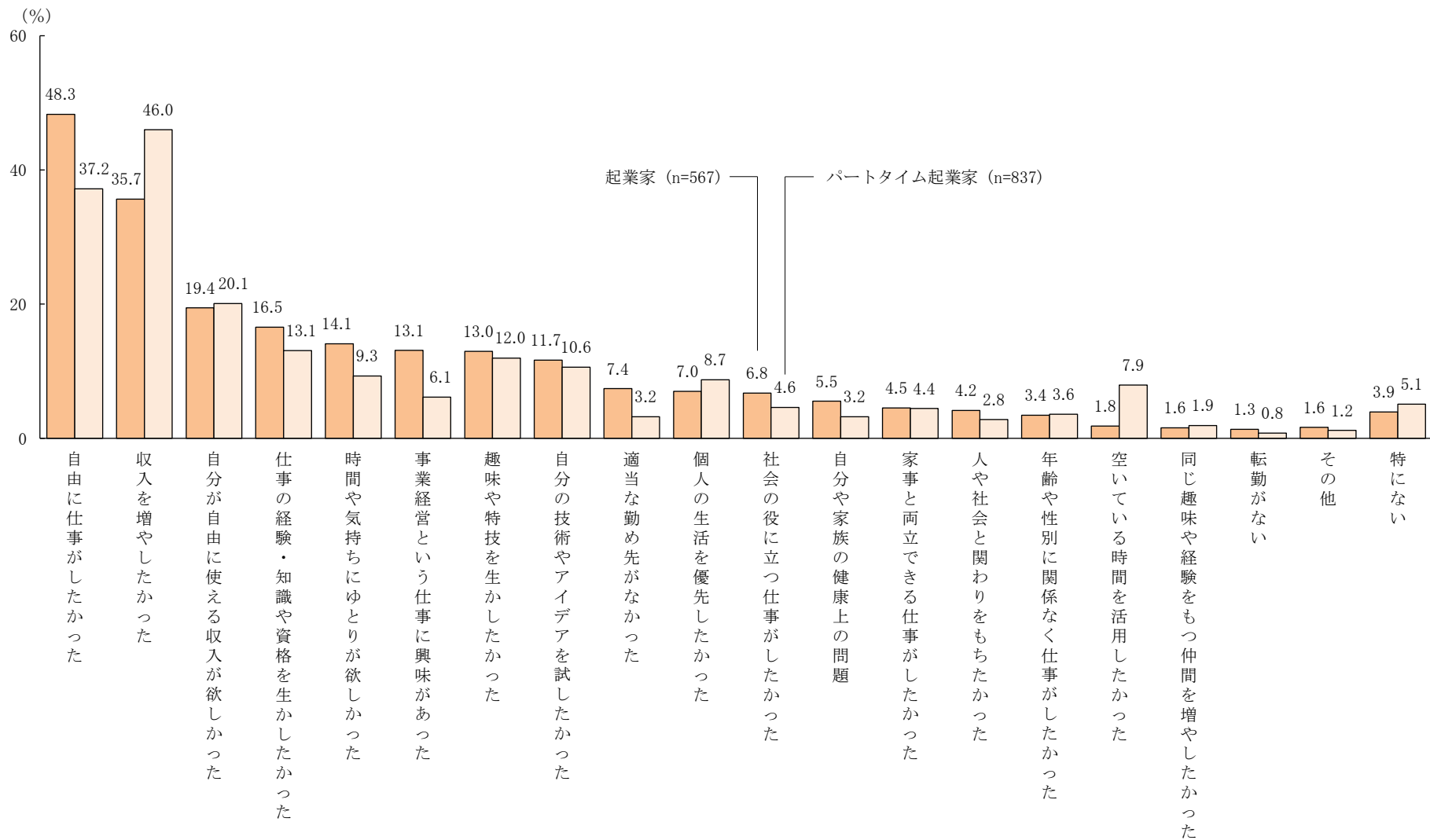


(2) 起業動機と事業の進め方

～最も多い起業動機は起業家が「自由に仕事がしたかった」、パートタイム起業家が「収入を増やしたかった」～

- 起業の動機をみると、起業家は「自由に仕事がしたかった」（48.3%）、「収入を増やしたかった」（35.7%）の順に多い（図-19）。パートタイム起業家は「収入を増やしたかった」（46.0%）が最も多く、「自由に仕事がしたかった」（37.2%）が続く。3番目は起業家、パートタイム起業家ともに「自分が自由に使える収入が欲しかった」（順に19.4%、20.1%）であった。

図-19 起業動機（三つまでの複数回答）



～自己資金のみで起業する割合は7割以上～

- 起業費用をみると、起業家は「50万円未満」の割合が32.4%と最も高い（図-20）。パートタイム起業家は「費用はかからなかった」とする割合が46.3%と最も高く、「50万円未満」（39.4%）を合わせると8割を超える。
- 起業費用に占める自己資金の割合が「100%（自己資金だけで起業）」である起業家は70.5%、パートタイム起業家は75.1%に上る（図-21）。
- 起業時の金融機関からの「借り入れなし」の割合は、起業家（82.4%）、パートタイム起業家（91.7%）ともに大半を占める（図-22）。
- 起業費用の調達額に対する満足度をみると、「希望どおり調達できた」とする割合が起業家で72.8%、パートタイム起業家で74.5%と、ともに最も高い（図-23）。

図-20 起業費用

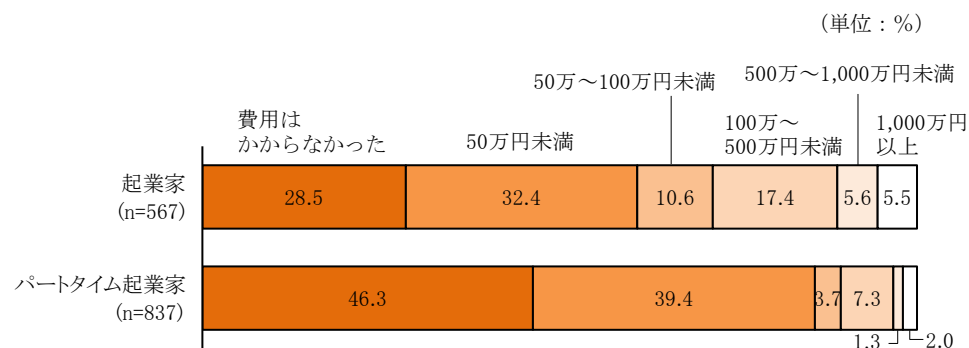
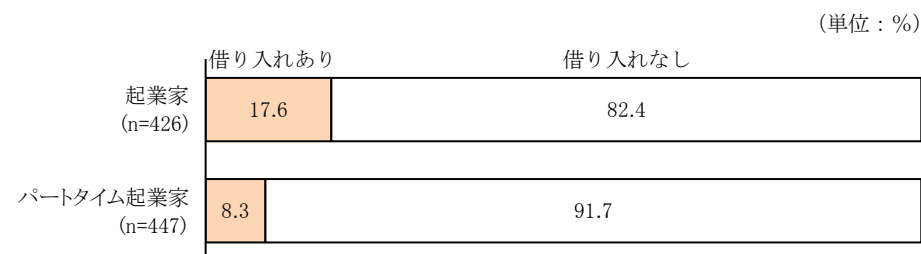


図-22 起業時の金融機関借り入れの有無



(注) 金融機関借り入れとは、民間金融機関（地方自治体の制度融資を含む）および日本政策金融公庫・沖縄振興開発金融公庫からの借り入れである。

図-21 起業費用に占める自己資金割合

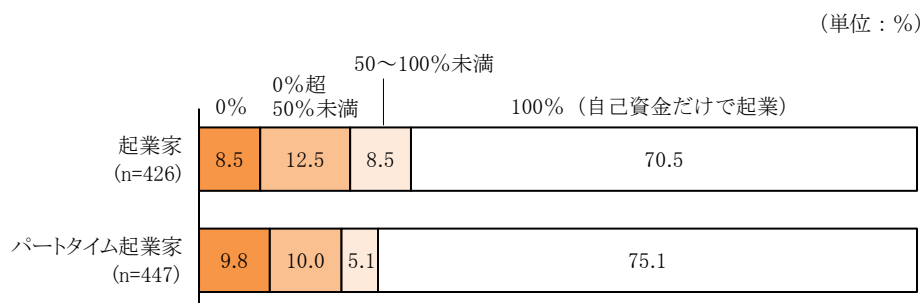
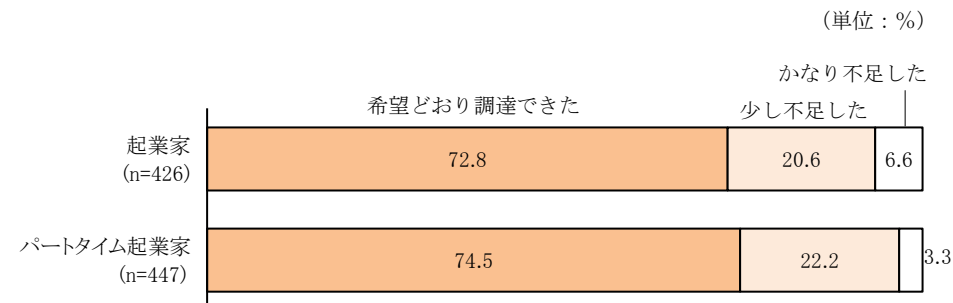


図-23 起業費用の調達額に対する満足度

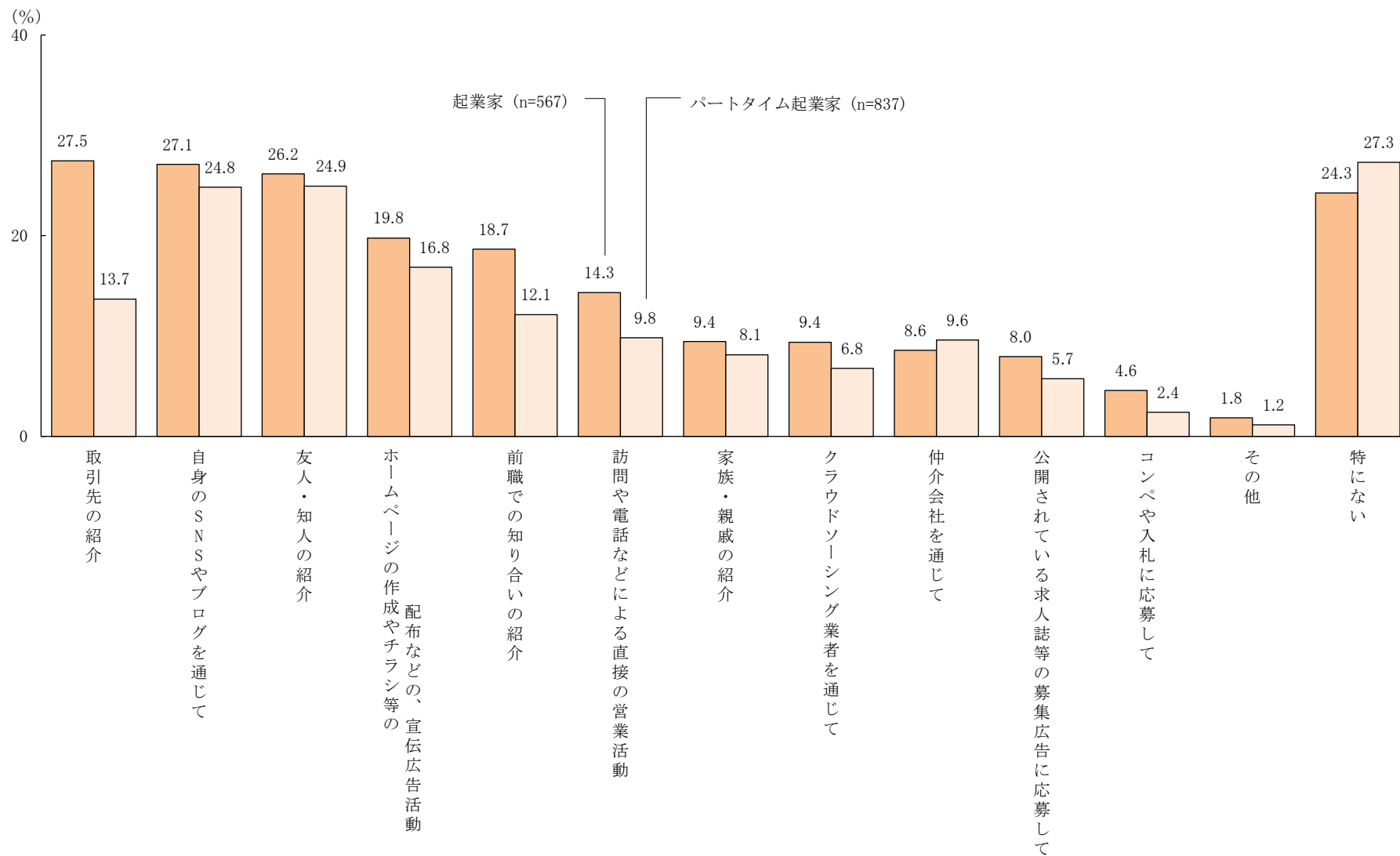


(注) 費用がかかったと回答した人を集計した（図-22、23も同じ）。

～起業家はパートタイム起業家に比べて「取引先の紹介」で受注する割合が高い～

○ 受注経路をみると、起業家は「取引先の紹介」（27.5%）が最も多く、パートタイム起業家（13.7%）より10ポイント以上高い（図-24）。次いで「自身のSNSやブログを通じて」（27.1%）が多く、「友人・知人の紹介」（26.2%）が続く。パートタイム起業家は「友人・知人の紹介」（24.9%）、「自身のSNSやブログを通じて」（24.8%）などが多くなっている。

図-24 受注経路（複数回答）



～自分の意向で仕事をする場所や時間帯を決められる起業家は約7割～

- 仕事や作業をする場所を「通常は自分の意向で決められる」とする割合をみると、起業家は69.0%、パートタイム起業家は66.2%であった（図-25）。
- 仕事や作業を行う時間帯を「通常は自分の意向で決められる」とする割合は、起業家（72.8%）の方がパートタイム起業家（67.3%）より高い（図-26）。
- 仕事や作業の報酬を「主に自分が決定する」割合は、起業家が22.7%、パートタイム起業家が28.5%であった（図-27）。
- 仕事や作業を「断れる」とする割合は、起業家が47.9%、パートタイム起業家が51.2%となった（図-28）。

図-25 仕事や作業を行う場所の裁量

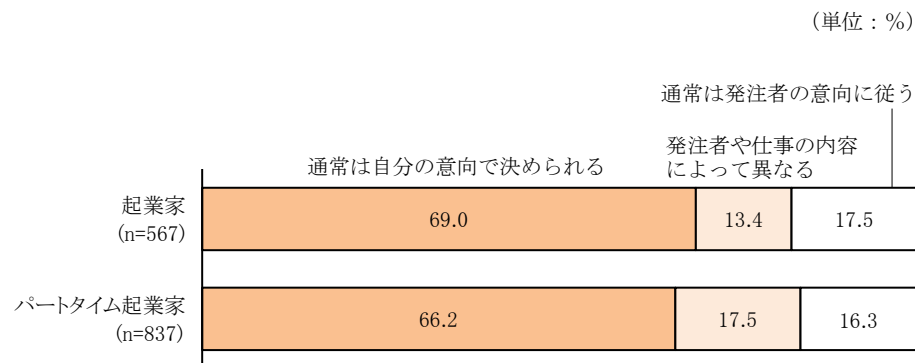


図-27 仕事や作業を行う報酬を決めるうえでの裁量

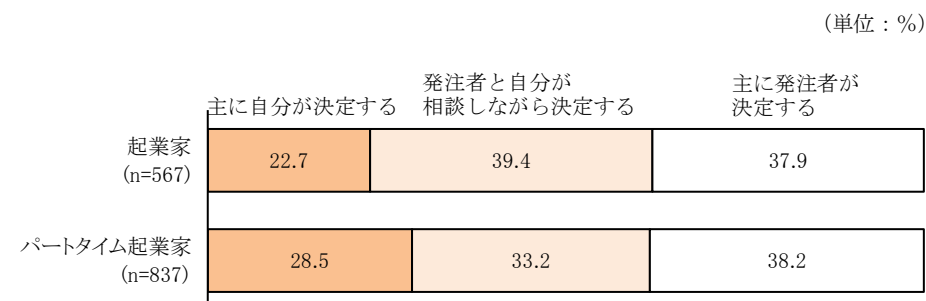


図-26 仕事や作業を行う時間帯の裁量

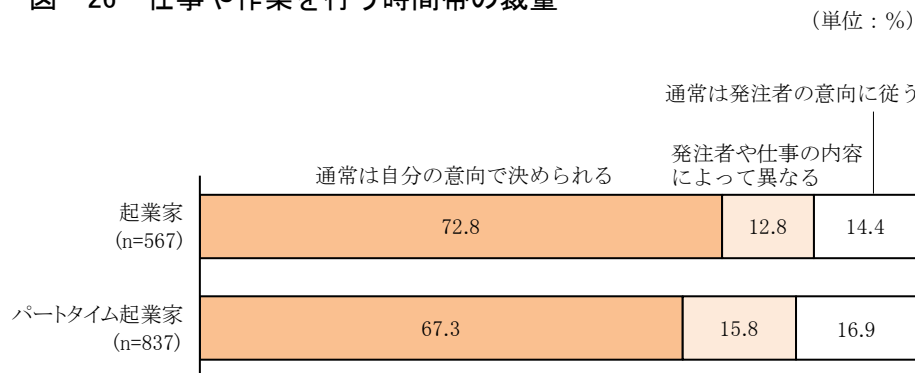
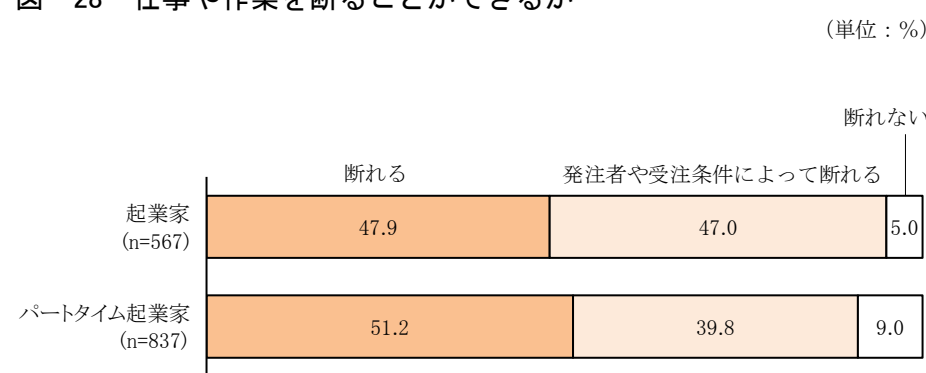


図-28 仕事や作業を断ることができるか

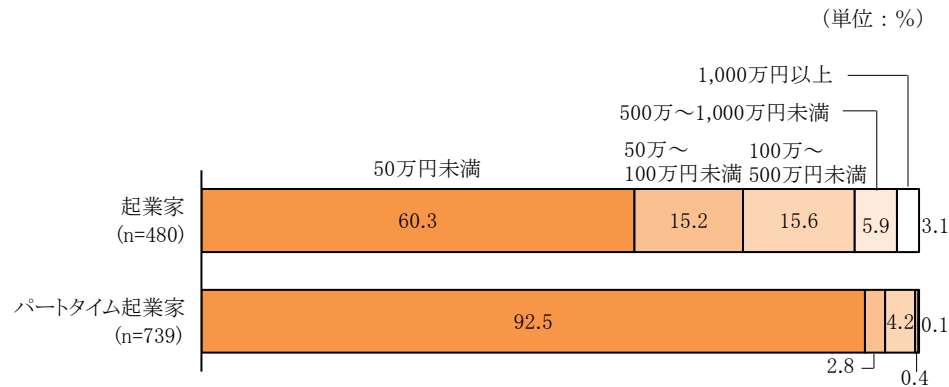


(3) 業績

～月商が「50万円未満」の起業家は6割、パートタイム起業家は9割以上～

- 現在の月商が「50万円未満」である割合はパートタイム起業家で92.5%と、起業家（60.3%）に比べてかなり高い（図-29）。
- 売上状況が「増加傾向」である割合は、起業家（32.9%）の方がパートタイム起業家（21.7%）に比べて高い（図-30）。
- 現在の採算状況が「黒字基調」である割合は、起業家が74.3%、パートタイム起業家が71.1%と、ともに「赤字基調」の割合を大きく上回っている（図-31）。
- 現在の業況が「良い」割合は起業家で15.8%、パートタイム起業家で16.2%、「やや良い」が起業家で51.9%、パートタイム起業家で51.6%となった（図-32）。

図-29 現在の月商



(注) 「わからない」「答えたくない」と回答した人を除いて集計した。

図-30 売上状況

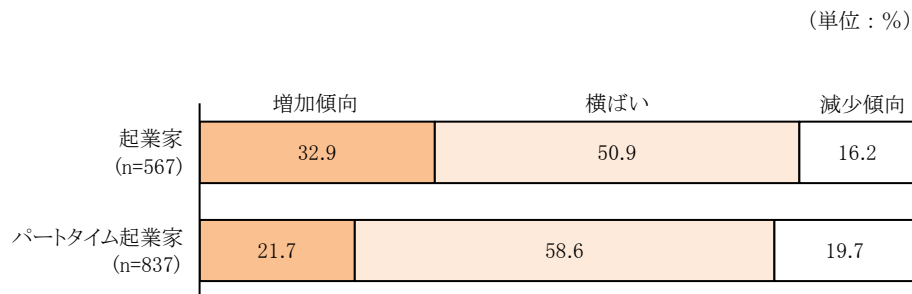


図-31 現在の採算状況

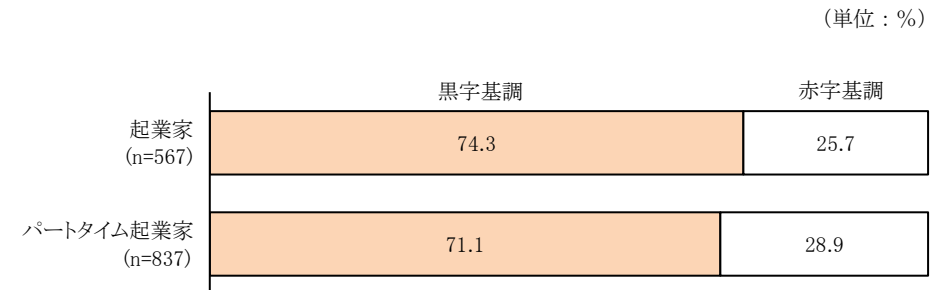
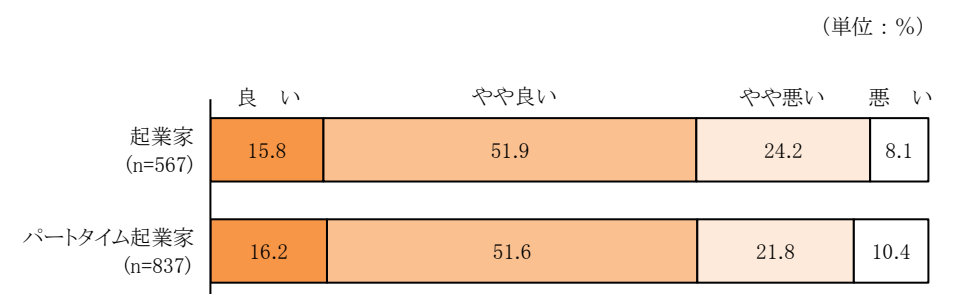


図-32 現在の業況

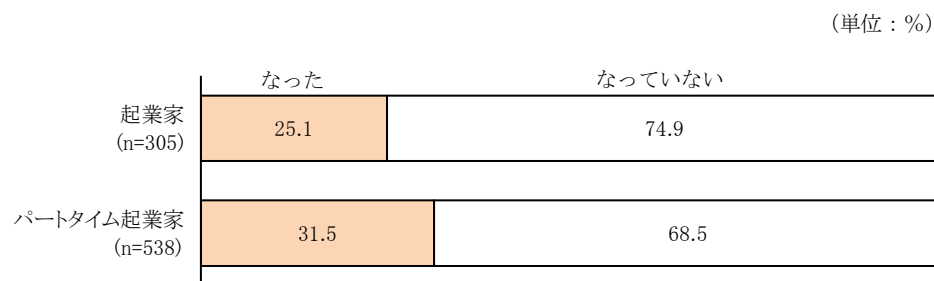


(4) 新型コロナウイルス感染症の影響

～新型コロナウイルス感染症によるマイナスの影響がある割合は半数以上～

- 新型コロナウイルス感染症の流行が事業を始めるきっかけになったという起業家は25.1%、パートタイム起業家は31.5%である（図-33）。
- 新型コロナウイルス感染症の事業へのマイナスの影響をみると、「大いにある」（起業家25.4%、パートタイム起業家19.0%）と「多少ある」（順に37.7%、36.5%）を合わせた割合は半数以上である（図-34）。
- マイナスの影響の内容は「国内の一般消費者の需要が減っている」（起業家34.9%、パートタイム起業家33.0%）が最も多く、次いで「国内の取引先の需要が減っている」（同29.3%、26.8%）となっている（図-35）。3番目に多いのは、起業家で「原材料・商品が手に入りやすくなっている（仕入価格の上昇を含む）」（24.5%）、パートタイム起業家で「営業を（一部）休止・自粛している」（19.3%）である。

図-33 新型コロナウイルス感染症の流行が事業を始めるきっかけになったか



(注) 事業を始めた年が2020年以降の人に尋ねた。

図-34 新型コロナウイルス感染症の事業へのマイナスの影響

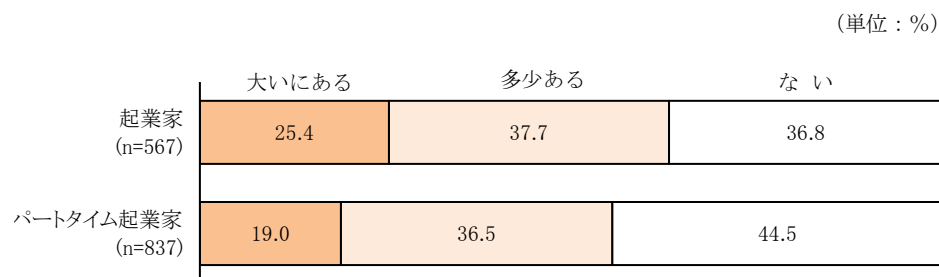
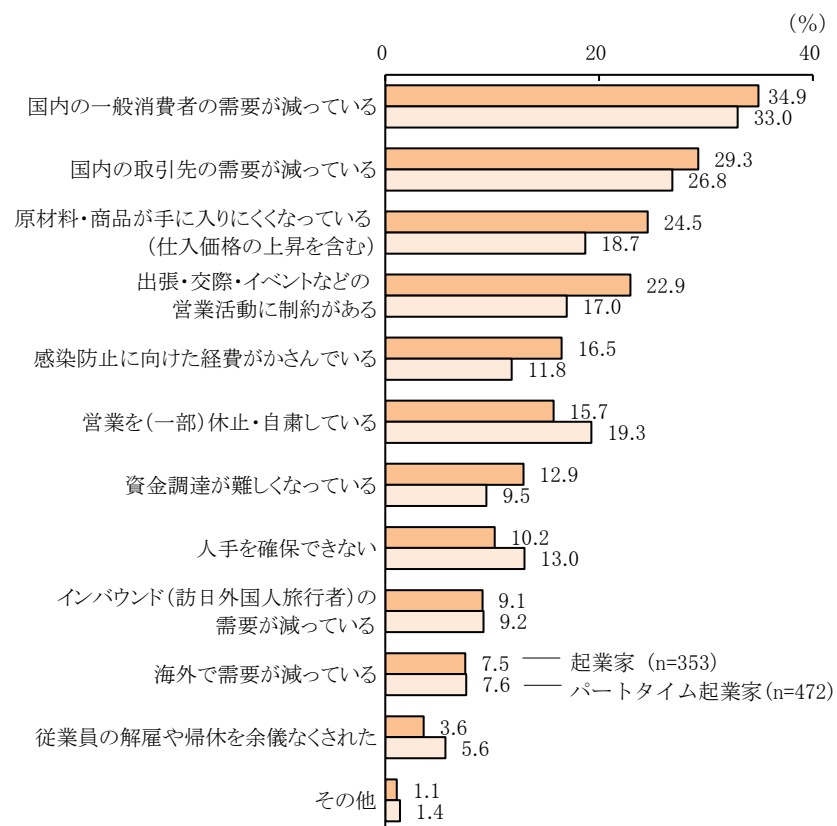


図-35 マイナスの影響の内容（複数回答）



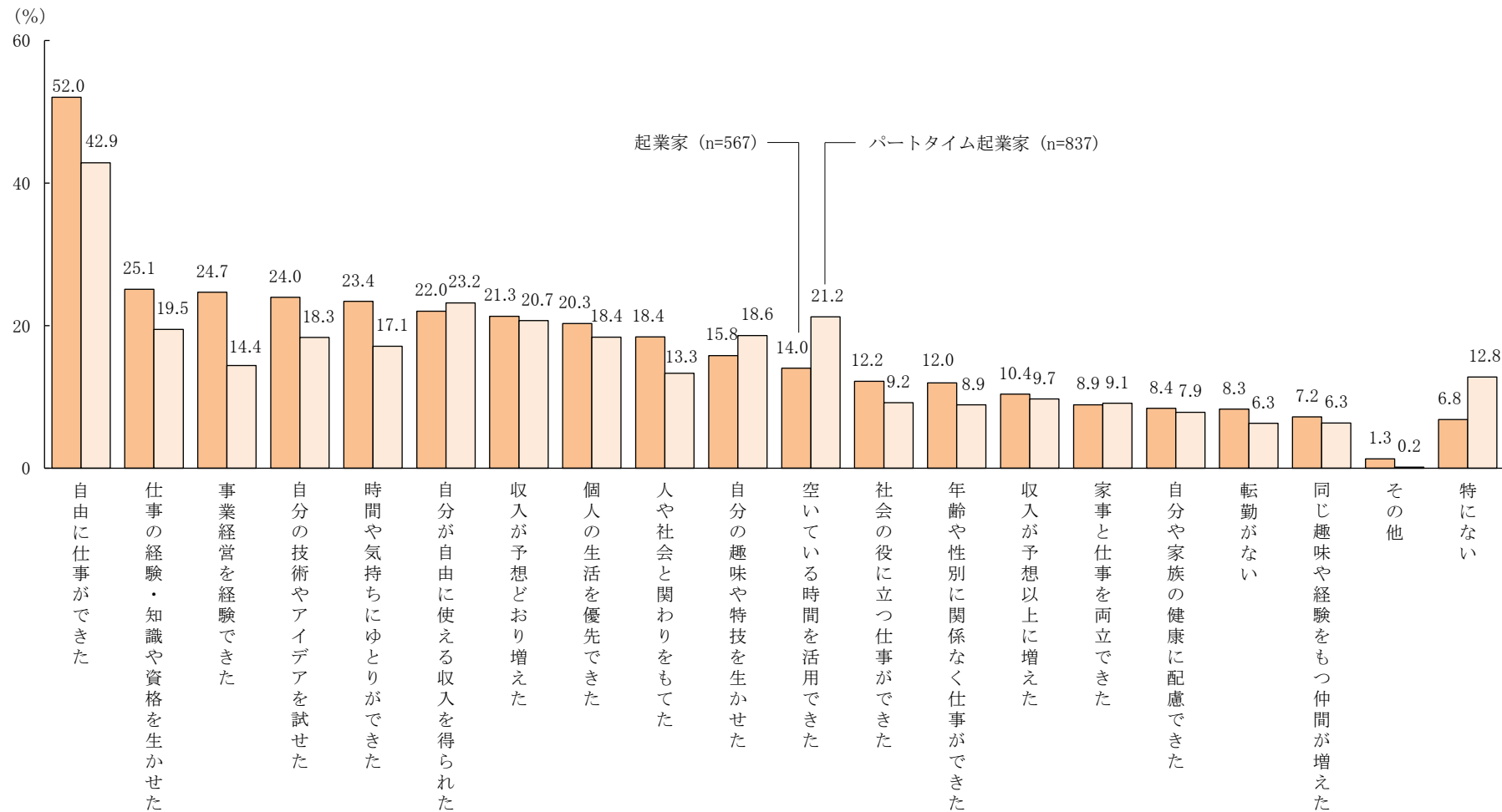
(注) 図-34で「大いにある」「多少ある」と回答した人に尋ねた。

(5) 評価と課題

～事業を始めてよかったことは「自由に仕事できた」が最も多い～

○ 事業を始めてよかったことをみると、「自由に仕事できた」が起業家（52.0%）、パートタイム起業家（42.9%）ともに最も多い（図-36）。パートタイム起業家は「空いている時間を活用できた」（21.2%）や「自分の趣味や特技を生かした」（18.6%）などが起業家（順に14.0%、15.8%）より高い割合となっている。

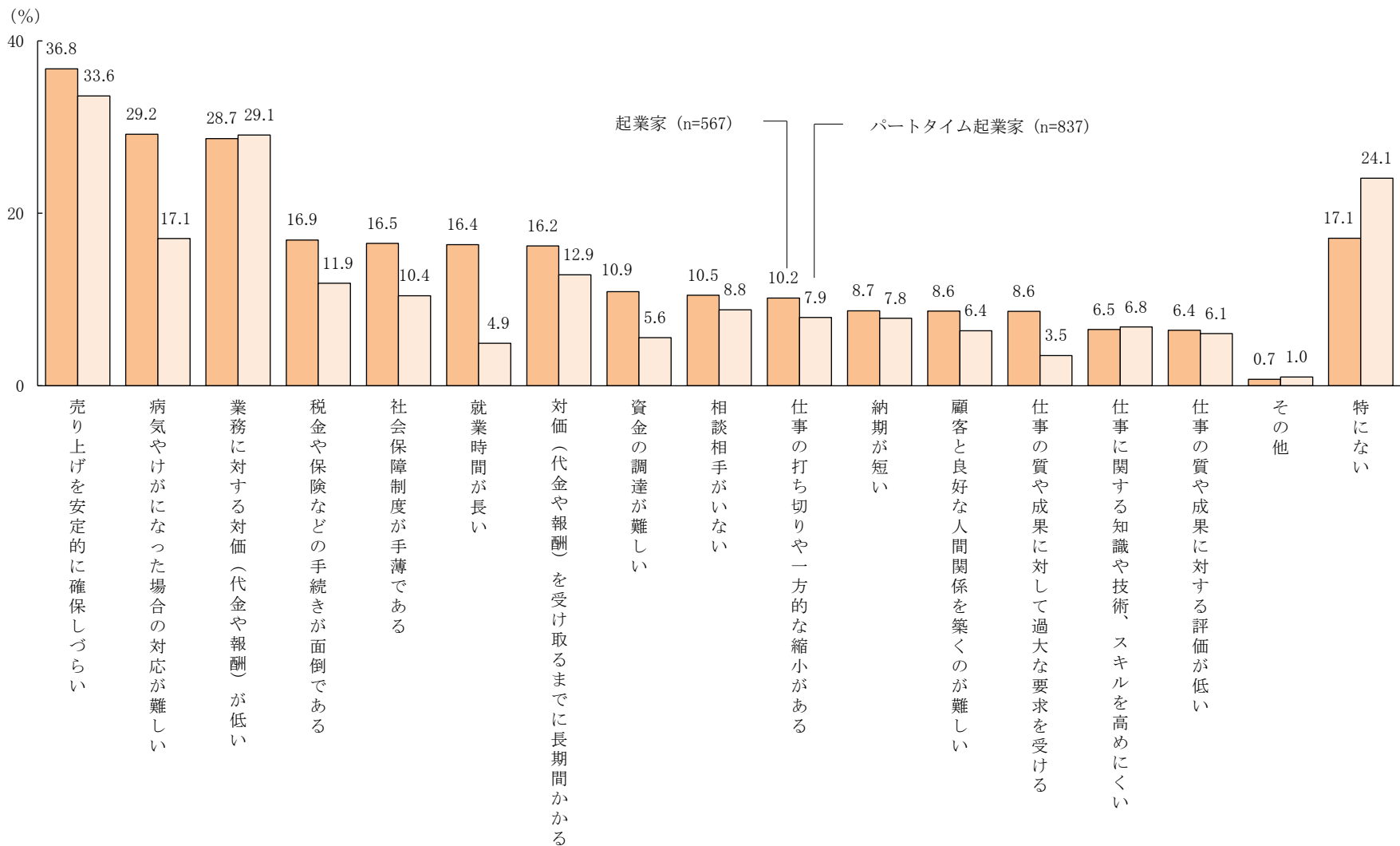
図-36 事業を始めてよかったこと（複数回答）



～売り上げの安定的な確保が課題～

○ 事業を行ううえで問題だと感じていることは、「売り上げを安定的に確保しづらい」との回答が起業家（36.8%）、パートタイム起業家（33.6%）ともに最も多い（図-37）。2番目に多いのは、起業家で「病気やけがになった場合の対応が難しい」（29.2%）、パートタイム起業家で「業務に対する対価（代金や報酬）が低い」（29.1%）となっている。

図-37 事業を行ううえで問題だと感じていること（複数回答）

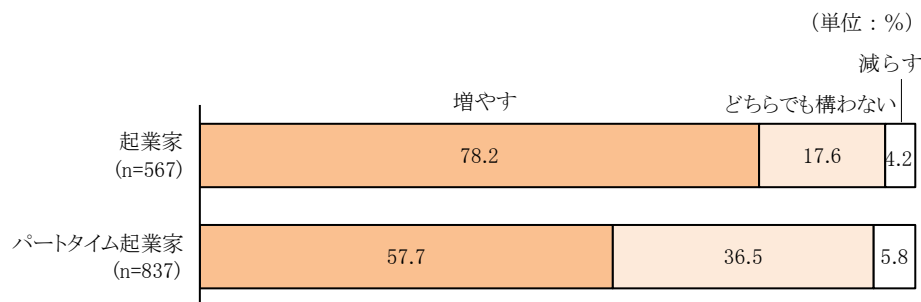


(6) 今後の方針

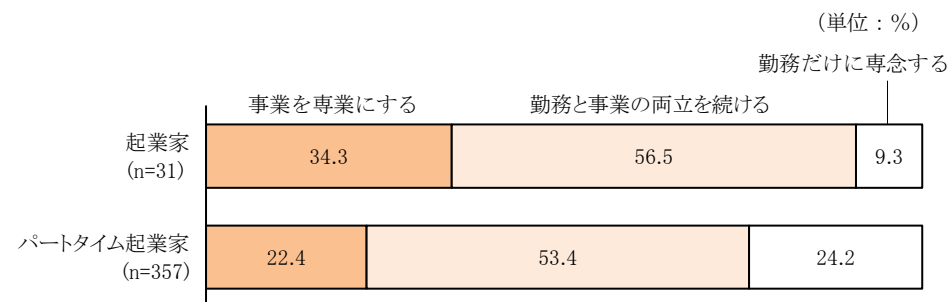
～今後売り上げを「増やす」方針の起業家は約8割、パートタイム起業家は約6割～

- 今後の売上高を「増やす」方針である割合は、起業家で78.2%と、パートタイム起業家（57.7%）より高い（図－38）。
- 従業員数を今後「増やす」とする割合は、起業家が25.0%、パートタイム起業家が15.6%にとどまっている（図－39）。
- 勤務をしながら事業を運営している人に事業を専業にするか尋ねると、「勤務と事業の両立を続ける」とする回答が起業家（56.5%）、パートタイム起業家（53.4%）ともに最も多い（図－40）。
- 事業を「承継したい」とする割合は、起業家で24.3%、パートタイム起業家で13.3%となった（図－41）。

図－38 今後の方針（売上高）

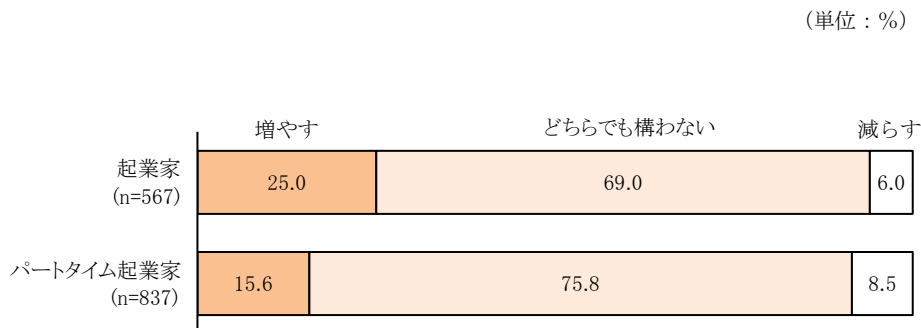


図－40 今後の方針（事業を専業にするか）

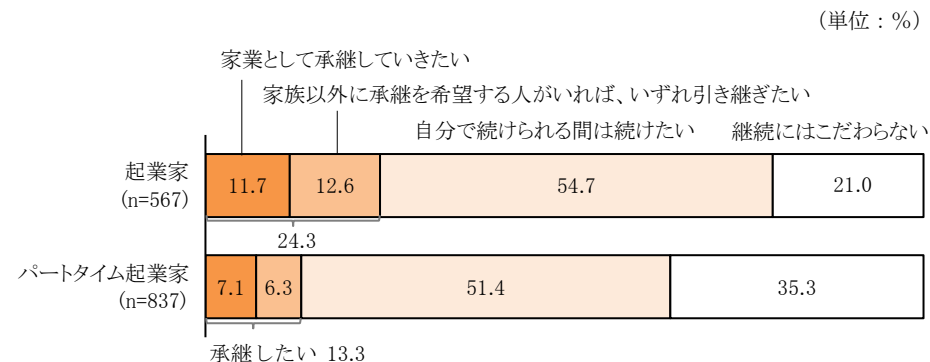


(注) 現在の職業を「勤務者」（役員、正社員、パート・アルバイトなど非正社員のいずれか）と回答した起業家、パートタイム起業家に尋ねた。

図－39 今後の方針（従業員数）



図－41 事業の継続



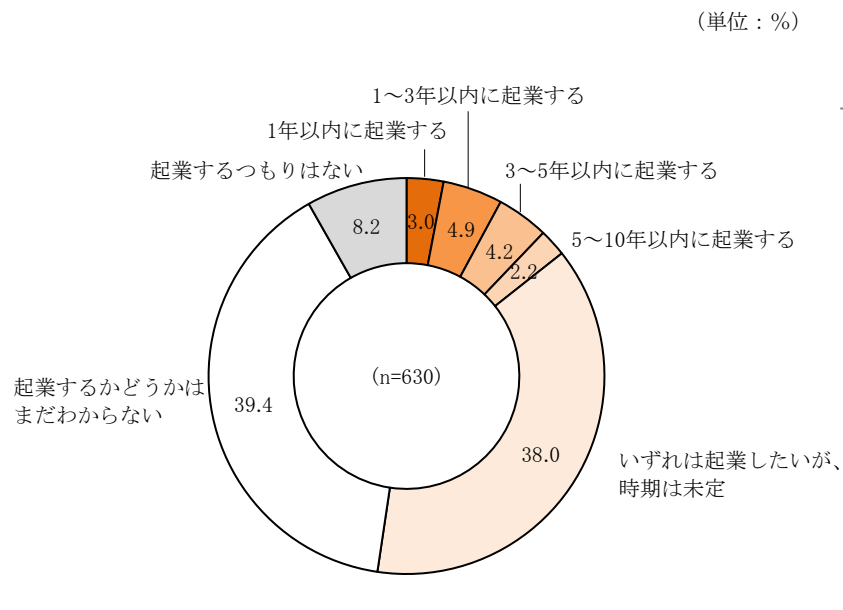
3 起業関心層の実態

～起業関心層の半数以上が「起業したい」と回答～

- 起業関心層に対して起業の予定の有無を尋ねると、「10年以内に起業する」と回答した14.4%と「いずれは起業したいが、時期は未定」の38.0%を合わせた「起業したい」が52.4%を占めている（図-42(1)）。
- 性別にみると、「起業したい」とする割合は、男性（61.1%）の方が女性（40.1%）よりも高い（同(2)）。
- 年齢別にみると、「起業したい」と考えている割合は60歳代（56.9%）が最も高い（同(3)）。

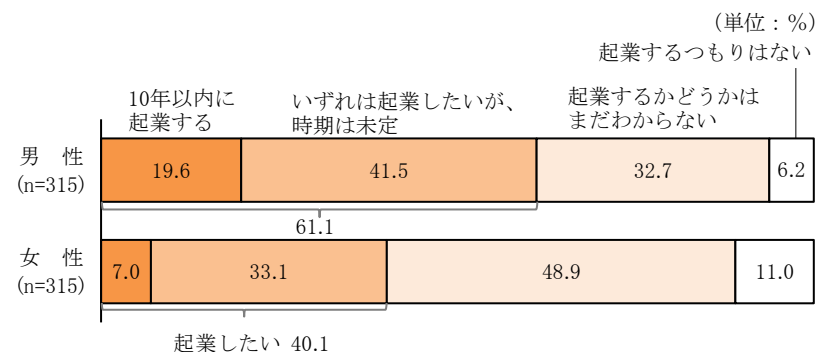
図-42 起業予定の有無

(1) 起業関心層全体

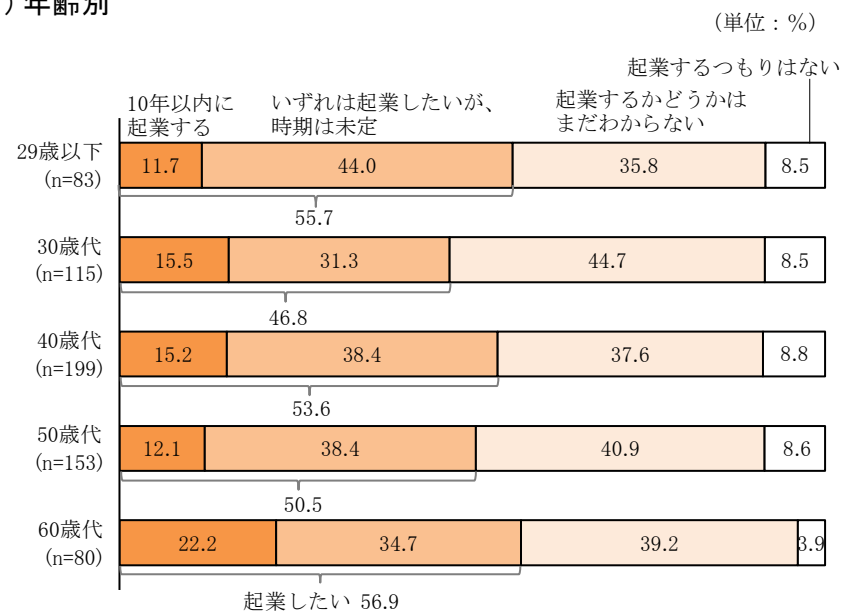


(注) 起業関心層に尋ねたもの（以下図-46まで同じ）。

(2) 性別



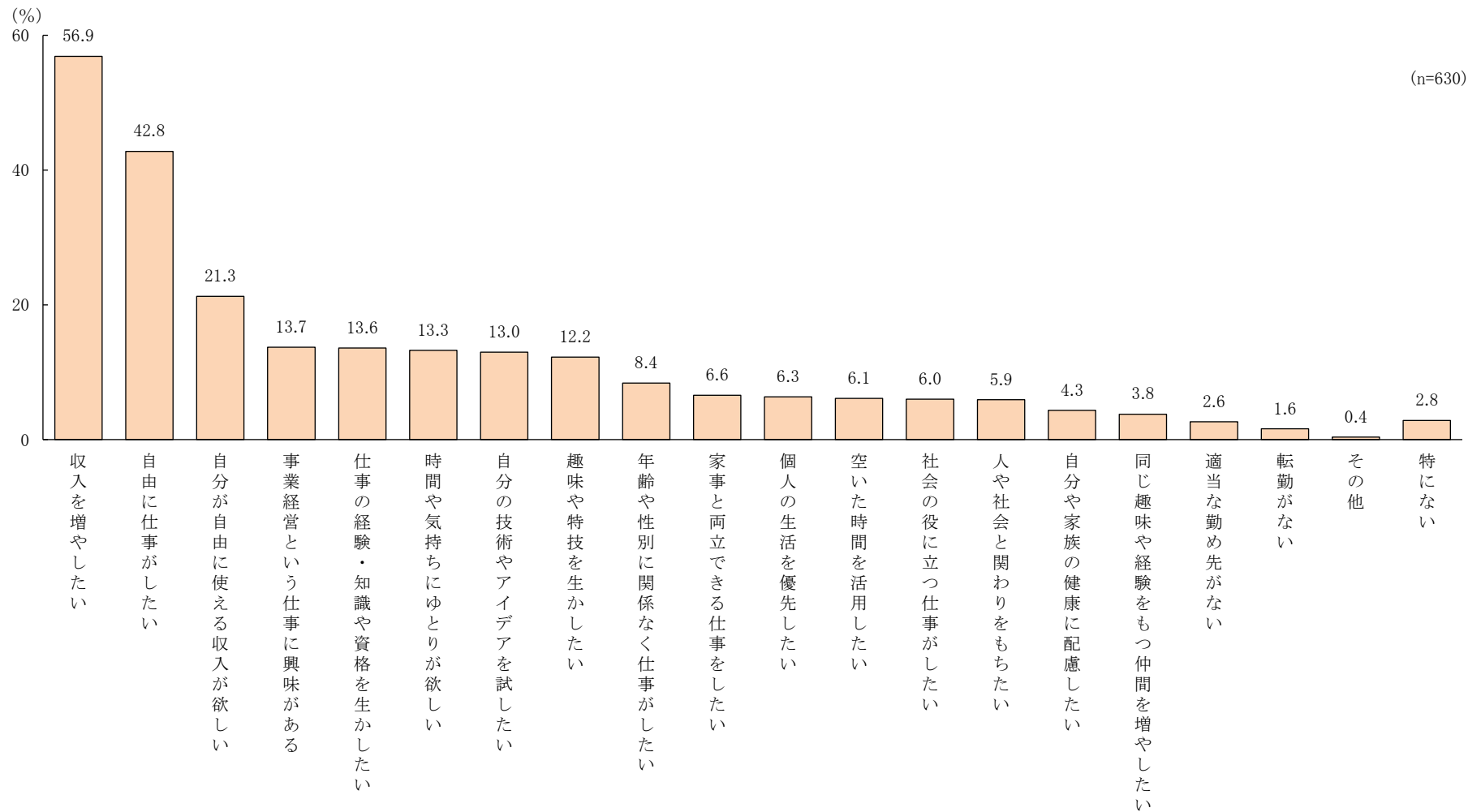
(3) 年齢別



～起業に関心をもった理由は「収入を増やしたい」「自由に仕事がしたい」が多い～

○ 起業関心層が起業に関心をもった理由をみると、「収入を増やしたい」が56.9%と最も多く、「自由に仕事がしたい」（42.8%）、「自分が自由に使える収入が欲しい」（21.3%）と続く（図-43）。

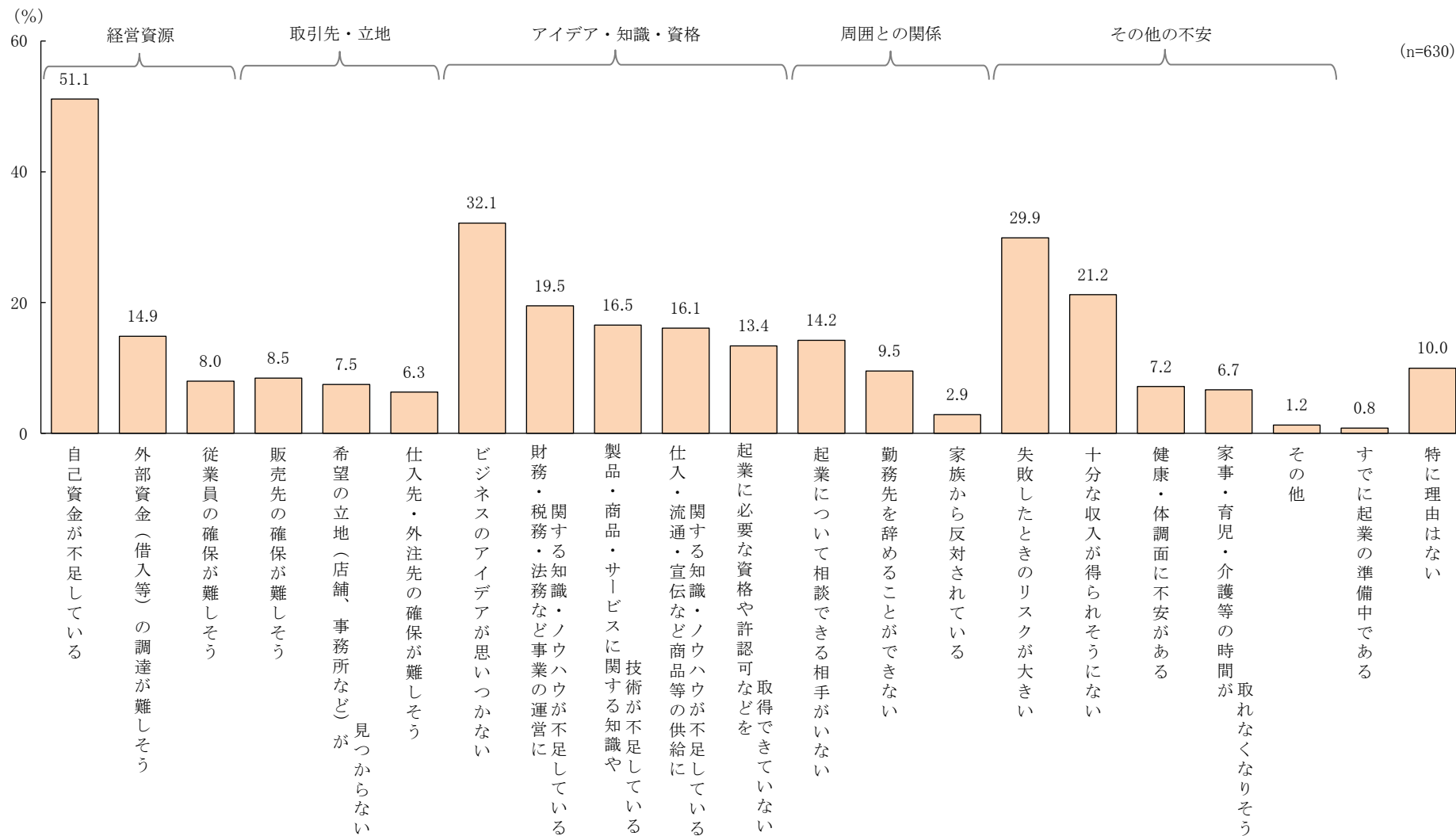
図-43 起業に関心をもった理由（三つまでの複数回答）



～「自己資金が不足している」がまだ起業していない大きな理由～

○ 起業関心層がまだ起業していない理由は、「自己資金が不足している」とする割合が51.1%と最も高く、「ビジネスのアイデアが思いつかない」(32.1%)、「失敗したときのリスクが大きい」(29.9%)と続く(図-44)。

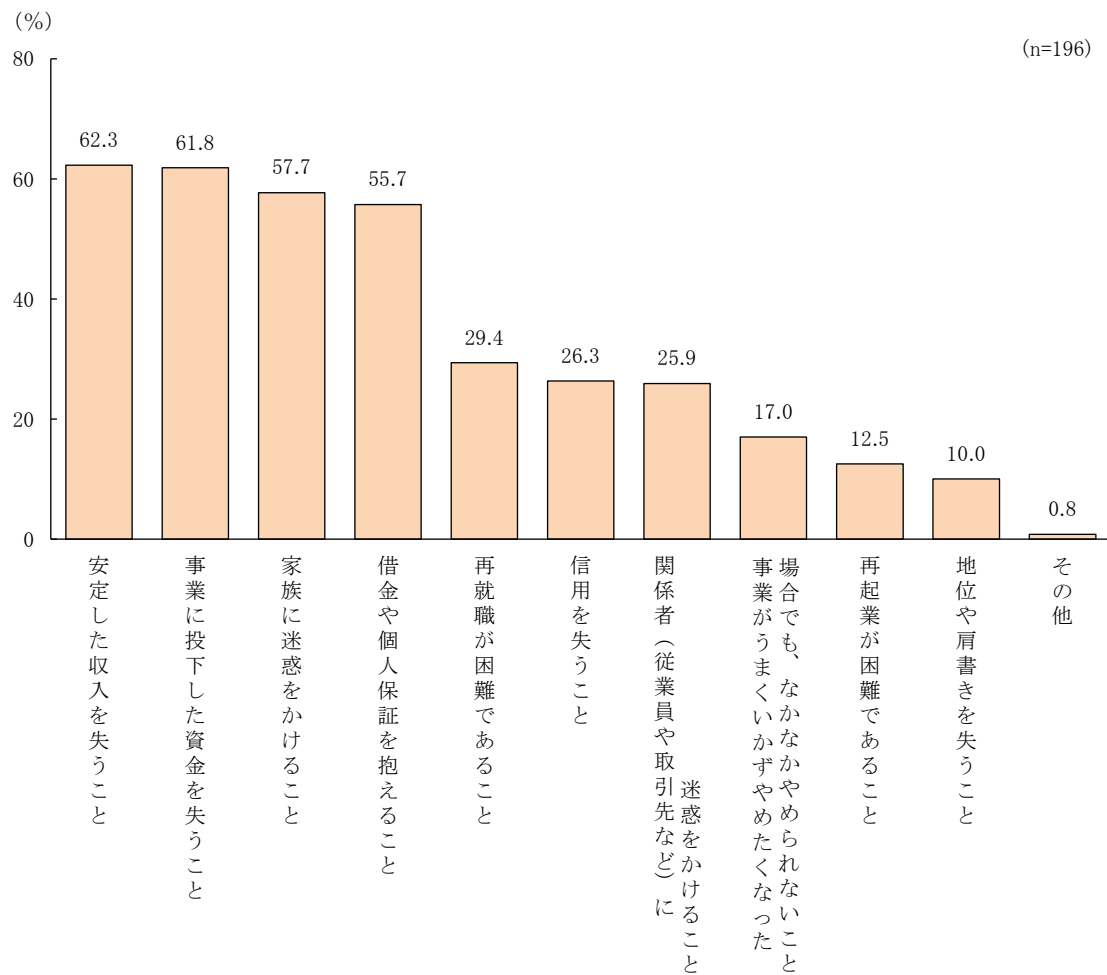
図-44 まだ起業していない理由(複数回答)



～資金面の問題を起業のリスクと捉える人が多い～

○ 起業に失敗したときのリスクの内容は、多い順に「安定した収入を失うこと」(62.3%)、「事業に投下した資金を失うこと」(61.8%)、「家族に迷惑をかけること」(57.7%)などとなっている(図-45)。資金面の問題をリスクと考える割合が相対的に高い。

図-45 失敗したときのリスク(複数回答)

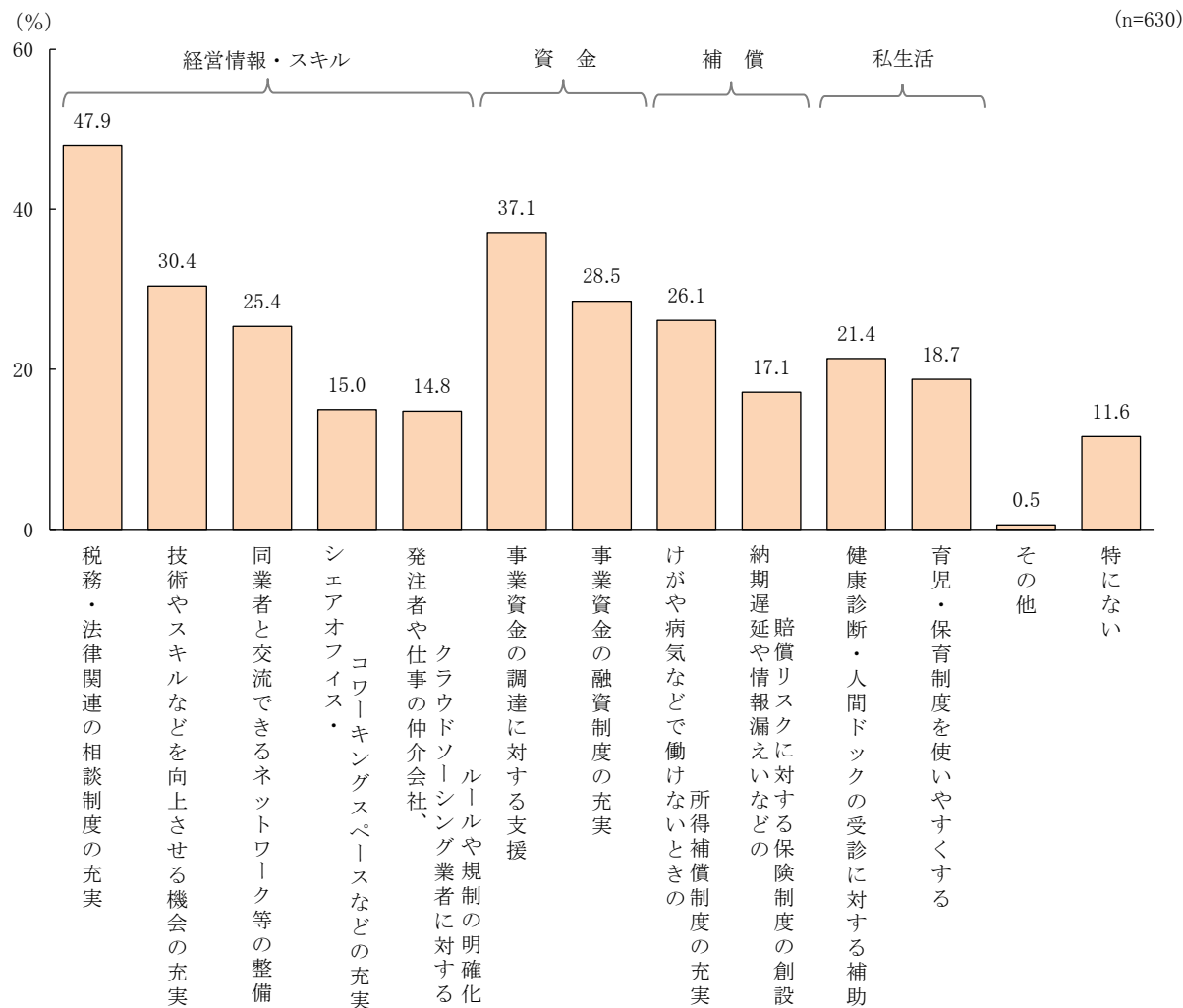


(注) まだ起業していない理由として、「失敗したときのリスクが大きい」と回答した人に尋ねた。

～起業の支援策として「税務・法律関連の相談制度の充実」を求める～

○ 起業する際にあつたらよいと思う支援策は、「税務・法律関連の相談制度の充実」とする回答が47.9%と最も多く、「事業資金の調達に対する支援」（37.1%）、「技術やスキルなどを向上させる機会の充実」（30.4%）が続く（図-46）。

図-46 起業する際にあつたらよいと思う支援策（複数回答）



4 起業家・パートタイム起業家・起業関心層・起業無関心層の満足度 ～起業家・パートタイム起業家の満足度は相対的に高い～

- 四つの類型について収入に関する満足度をみると、起業家は「かなり満足」が6.5%、「やや満足」が30.3%、パートタイム起業家は順に4.7%、24.1%と、起業関心層や起業無関心層より高い（図-47）。
- 仕事のやりがいをみると、起業家は「かなり満足」が20.5%、「やや満足」が42.1%、パートタイム起業家は順に14.8%、37.7%と、やはり起業関心層、起業無関心層より高い（図-48）。
- ワークライフバランスに「かなり満足」している割合も、起業家が18.7%、パートタイム起業家が16.0%、「やや満足」は順に39.2%、34.9%と、起業関心層、起業無関心層を上回る（図-49）。
- 総合的な満足度をみると、「かなり満足」と「やや満足」の割合は起業家（16.1%、41.0%）とパートタイム起業家（11.3%、37.1%）が、起業関心層（3.9%、30.5%）や起業無関心層（4.6%、28.1%）より高い（図-50）。起業家、パートタイム起業家の順で満足している割合が高い。

図-47 収入に関する満足度

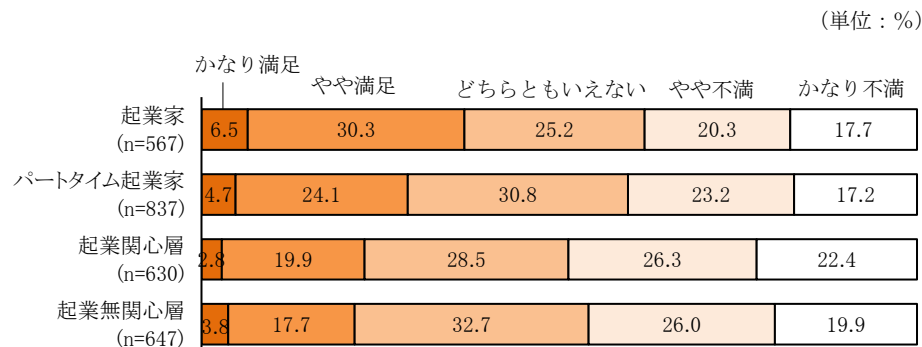


図-49 ワークライフバランスに関する満足度

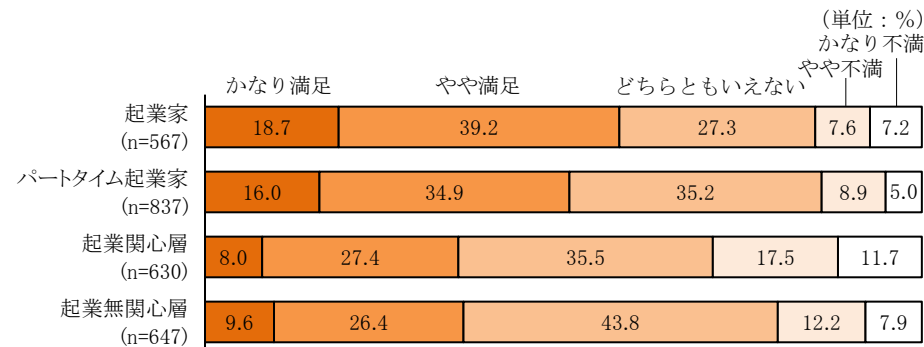


図-48 仕事のやりがいに関する満足度

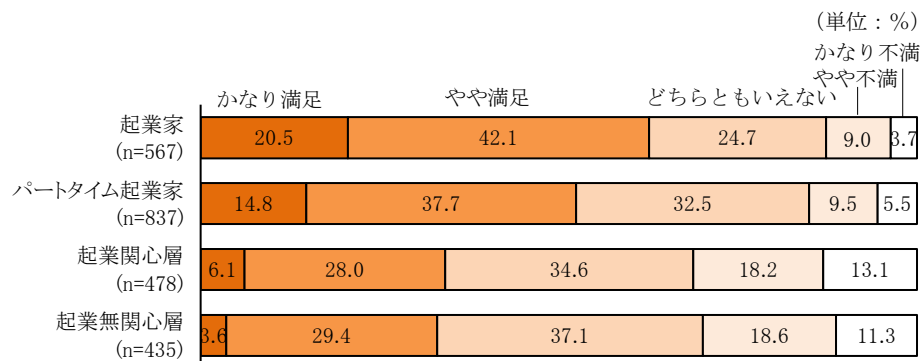
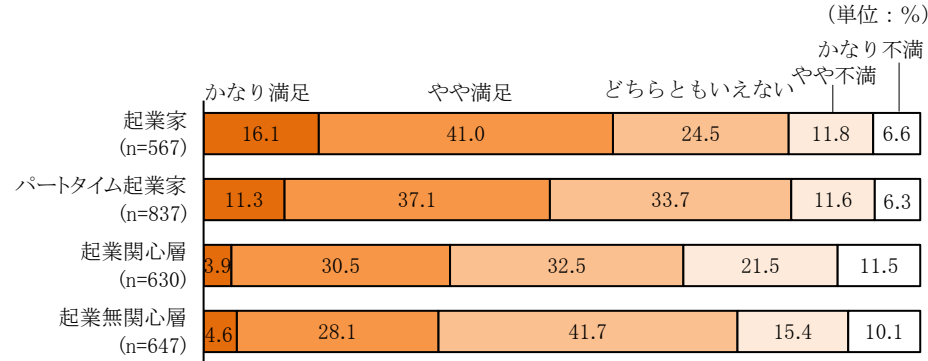


図-50 総合的な満足度



(注) 起業関心層、起業無関心層については、図-3で現在の職業が勤務者である人を集計した。

Ⅲ まとめ

1 パートタイム起業家は「女性」が4割以上と起業家に比べて多い (p.4)

年齢をみると、起業家やパートタイム起業家、起業関心層では「29歳以下」(順に35.4%、33.0%、27.2%)が最も多い(図-1)。起業無関心層では「60歳代」(21.5%)の割合が相対的に高い。

性別では、「女性」の割合がパートタイム起業家は43.9%と、起業家(24.4%)を20ポイント近く上回る(図-2)。起業無関心層は「女性」が57.5%と半数を超える。

2 起業家、パートタイム起業家ともに1人で事業を運営する人が7割以上 (p.7)

起業した業種は、「個人向けサービス業」の割合が起業家で22.9%、パートタイム起業家で26.0%と最も高い(表)。「事業所向けサービス業」(順に13.1%、12.3%)を合わせると、サービス業が3分の1以上を占める。

現在の従業者数が「1人(本人のみ)」である割合は、起業家(71.6%)、パートタイム起業家(76.8%)ともに7割を超える(図-12)。

3 パートタイム起業家の4割以上が勤務しながら起業 (p.8)

開業時の勤務状況をみると、パートタイム起業家では「現在も勤務しながら事業を行っている」(32.8%)と「勤務をしながら事業を始めたが、現在は勤務を辞め、事業だけを行っている」(10.5%)を合わせた「勤務しながら起業した」割合が43.3%となった(図-15)。

勤務先からの離職理由を「自らの意思による退職」と回答した割合は、起業家が86.2%と、パートタイム起業家(77.9%)より高くなっている(図-16)。「定年退職」の割合は、パートタイム起業家(8.5%)が起業家(3.7%)を上回る。

4 自己資金のみで起業する人が7割以上 (p.11)

起業費用をみると、起業家は「50万円未満」の割合(32.4%)が最も高い(図-20)。パートタイム起業家は「費用はかからなかった」とする割合が46.3%と最も高く、「50万円未満」(39.4%)を合わせると8割を超える。起業費用に占める自己資金の割合が「100%(自己資金だけで起業)」と回答した起業家は70.5%、パートタイム起業家は75.1%と、7割以上を占める(図-21)。

5 月商が「50万円未満」の割合は起業家は6割、パートタイム起業家は9割以上 (p.14)

現在の月商が「50万円未満」である割合は、パートタイム起業家では92.5%と大半を占めており、起業家(60.3%)と比べるとかなり高い(図-29)。

現在の採算状況が「黒字基調」である割合は、起業家(74.3%)、パートタイム起業家(71.1%)ともに「赤字基調」の割合を大きく上回っている(図-31)。

6 起業関心層のうち「起業したい」人が半数以上 (p.19、21)

起業関心層に起業予定を尋ねると、「10年以内に起業する」(14.4%)と「いずれは起業したいが、時期は未定」(38.0%)を合わせた「起業したい」が52.4%となった(図-42(1))。まだ起業していない理由は、「自己資金が不足している」との回答割合が51.1%と最も高く、次いで「ビジネスのアイデアが思いつかない」(32.1%)、「失敗したときのリスクが大きい」(29.9%)となっている(図-44)。

<参 考> ウェイト値の設定について

詳細調査における起業家、パートタイム起業家、起業関心層、起業無関心層の性別・年齢別構成比は、実際の人口構成を反映している事前調査（A群）と比べて偏りが生じている。そこで、詳細調査の集計に当たっては、事前調査（A群）の性別・年齢別構成比に近似させるために、ウェイト値を設定した。その算出方法は次のとおりである。

① 事前調査（A群）の回収数

(単位：人)

	起業家		パートタイム起業家		起業関心層		起業無関心層	
	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性
18～29歳	43	15	180	150	386	254	857	1,124
30歳代	24	9	138	105	301	240	915	1,147
40歳代	27	9	112	104	329	263	1,220	1,558
50歳代	18	4	75	52	231	162	1,076	1,511
60歳代	12	3	59	28	127	63	1,028	1,548

② 詳細調査の回収数

(単位：人)

	起業家		パートタイム起業家		起業関心層		起業無関心層	
	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性
18～29歳	29	26	71	88	31	52	37	57
30歳代	90	41	103	114	53	62	54	34
40歳代	146	36	115	94	92	107	76	55
50歳代	122	21	93	52	84	69	95	89
60歳代	55	1	95	12	55	25	63	87

③ ウェイト (①÷②)

	起業家		パートタイム起業家		起業関心層		起業無関心層	
	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性
18～29歳	1.483	0.577	2.535	1.705	12.452	4.885	23.162	19.719
30歳代	0.267	0.220	1.340	0.921	5.679	3.871	16.944	33.735
40歳代	0.185	0.250	0.974	1.106	3.576	2.458	16.053	28.327
50歳代	0.148	0.190	0.806	1.000	2.750	2.348	11.326	16.978
60歳代	0.218	3.000	0.621	2.333	2.309	2.520	16.317	17.793